生活工房

アニュアルレポート2024

MAP

FIELD NOTE

APRIL 2024

↓

MARCH 2025

LIFESTYLE
DESIGN CENTER
ANNUAL REPORT

2024

生活工房

アニュアルレポート2024

暮らし×デザインの交流拠点

物や情報が溢れる時代。生活工房は「モノ」だけでなく「コト」に光をあて、小さな物語に耳を傾けます。観たり、触ったり、感じたりする体験を通して、本当の豊かさや、大切にしたい文化をともに考える場をつくります。暮らしの根っこに触れること、なぜだろうと考えること、対話することを大切にしています。

The crossroad of life and design.

In an age overflowing with things and information. Lifestyle Design Center illuminates the intangible as well as the tangible, paying attention to small stories. Through the experience of seeing, touching, and sensing, we ask: what is true abundance, what is culture? We value the creation of a space for dialogue, to touch on the roots of life and ask each other why.

生活工房とは
About Lifestyle Design Center

生活工房の事業
Our Program

「展覧会」「ワークショップ」「セミナー」「地域と市民活動」の4つの事業を主として生活工房は運営されています。

Lifestyle Design Center primarily supports the four programs of exhibitions, workshops, seminars, and local and regional activities.

展覧会 | Exhibition

新たな発見が暮らしを彩る
New Discoveries Embellish Daily Life

生活工房ギャラリーやワークショップルームでは、デザインやクラフト、異文化など多角的なテーマで展示を実施しています。

Exhibitions on diversified themes such as design, crafts, and foreign cultures are held in the Seikatsu-Kobo Gallery and the Workshop Rooms.

ワークショップ | Workshop

多彩なモノづくりを楽しむ
The Joy of Making Things

参加者が手や体を動かしながら「考え」「作る」ワークショップでは、子供から大人までが楽しめる多彩なプログラムを実施しています。

A variety of programs are held where participants of all ages can move their hands and bodies as they enjoy “think” and “make” workshops.

セミナー | Seminar

社会を知る、学びを楽しむ
Understanding Society, Enjoying Learning

専門家やクリエイターを招き、暮らしや文化に関する生きた言葉に触れるさまざまな講演やトークイベントを実施しています。

Experience living words on life and culture in various lectures and talk events given by specialists and creators.

地域と市民活動 | Local Community

地域とつながる
Connecting with the Region

地域の活動と交流を支援し、多様な価値観や共感の輪を広げ、ネットワークを構築し豊かな地域づくりのお手伝いをしています。

We assist with region-building by supporting area and regional activities and exchange, widening the circle of various values and sympathies, and creating vibrant networks.

生活工房の一年

春

1月31日（水）〜4月21日（日）

世田谷のまちと暮らしのチカラ　まちづくりの歩み50年

Exhibition

4月29日（月・祝）〜8月25日（日）

アウト・オブ・民藝　「民」から学ぶ編　MINGEIのB面！

Exhibition

5月25日（土）

共催事業　**第5回せたがや居場所サミット**

Local Community

夏

8月10日（土）・11日（日・祝）

ワークショップ　**世田谷うまれのリソグラフ®印刷であそぼう！**

Workshop / Seminar

8月21日（水）〜8月23日（金）

第23回おはなしいっぱい

Local Community

秋

9月3日（火）〜12月26日（木）

山下陽光のおもしろ金儲け実験室

Exhibition

9月7日（土）・10月5日（土）・6日（日）

日常を見限らない　バランスのワークショップ

Workshop / Seminar

11月24日（日）・12月14日（土）・2025年1月12日（日）

対話の効能　〈わたし〉と〈あなた〉のあわい vol.2

Workshop / Seminar

冬

2025年1月21日（火）〜4月20日（日）

PART OF THE ANIMAL　動物と人間のあいだ

Exhibition

2025年2月9日（日）・3月22日（土）

老人性アメイジング！ vol.2　寿ぎと分解

Workshop / Seminar

2025年2月24日（月・祝）

共催事業　**『三世代遊び場図鑑』復刊記念シンポジウム**

Local Community

通年

生活工房アレコレ2024　**8ミリフィルム常設上映**

Exhibition

穴アーカイブ：an-archive　**せたがやアカカブの会**

Local Community

穴アーカイブ：an-archive　**エトセトラの時間　見えるものと見えないものを語る会**

Local Community

ちかくのとーく

Local Community

展覧会

Exhibition

Exhibition | 展覧会

アウト・オブ・民藝

「民」から学ぶる編　MINGEIのB面！

山下陽光のおもしろ金儲け実験室

PART OF THE ANIMAL

動物と人間のあいだ

生活工房アレコレ2024

8ミリフィルム常設上映

目次

生活工房とは？ …… 02
生活工房の事業 …… 02
生活工房の1年 …… 02

展覧会 Exhibition

アウト・オブ・民藝 …… 06
「民」から学ぶる編　MINGEIのB面！
山下陽光のおもしろ金儲け実験室 …… 08
PART OF THE ANIMAL　動物と人間のあいだ …… 10
生活工房アレコレ2024　8ミリフィルム常設上映 …… 12

ワークショップ／セミナー Workshop / Seminar

ワークショップ
世田谷うまれのリソグラフ®印刷であそぼう！ …… 14
日常を見限らない　バランスのワークショップ …… 16
対話の効能　〈わたし〉と〈あなた〉のあわい vol.2 …… 18
老人性アメイジング！ vol.2　考えと分解 …… 20

地域と市民活動 Local Community

第23回おはなしいっぱい …… 22
ちかくのとーく …… 24
穴アーカイブ: an-archive
せたがやアカブの会／エトセトラの時間　見えるものと見えないものを語る会 …… 25
共催事業
第5回せたがや居場所サミット …… 26
『三世代遊び場図鑑』復刊記念シンポジウム …… 26
世田谷市民活動支援会議 …… 27
市民活動支援コーナー …… 27
広報事業 …… 28
フライヤーギャラリー …… 29
施設ガイド …… 38
数字で見る生活工房 …… 40

アウト・オブ・民藝

「民」から芋づる編　MINGEIのB面！

10代の声

「人々の生活のために、その美しさのために、その豊かさのために、その進歩のために」という言葉にとりはだかたった。

1

「民藝」の周縁を芋づる愉しみ

柳宗悦の提唱した「民藝」の周縁をめぐり、民藝運動発足当時に起きていたさまざまな工芸運動、それらにまつわる人、物、出版社などのネットワークを探るリサーチ活動「アウト・オブ・民藝」。本展では、『アウト・オブ・民藝』の著者であるデザイナーの軸原ヨウスケと美術家の中村裕太が、柳らが夢中になって民芸品を蒐集していた黎明期の民藝運動と、今日のライフスタイルとしての「MINGEI」との食い合わせを、「民」という文字からひも解いていった。

会場には、主に1910年代から40年代の新聞や雑誌などの出版物をはじめ、柳らの日記や書簡などを時間軸に沿わせた「アウト・オブ・民藝の芋蔓年表」を設えた。24のトピックと書籍や雑誌、こけしや木っ端人形を配置した17メートルの立体年表は圧巻。さらに、新聞や雑誌のスクラップをレコードジャケットのように手繰って閲覧することができ、人や物の関連を芋づっていく楽しさを体験できる展示となった。世田谷美術館「民藝MINGEI――美は暮らしのなかにある」展の会期と合わせて開催。

開催日時　2024年4月29日（月・祝）～8月25日（日）
9:00～21:00（祝・休日をのぞく月曜休み）
会場　生活工房ギャラリー
来場人数　24,505名
企画制作　軸原ヨウスケと中村裕太
助成　京都精華大学 芸術表現助成

関連企画

アウト・オブ・民藝のなかよしトーク
開催日時　4月28日（日）15:00～16:30
会場　生活工房ギャラリー
講師　軸原ヨウスケ（デザイナー）、中村裕太（美術家）
参加人数　60名
参加費　無料

アウト・オブ・民藝の芋蔓まつり
開催日時　6月15日（土）13:00～18:00
会場　生活工房ギャラリー、ワークショップルームAB
講師　花井久穂（東京国立近代美術館主任研究員）、田口史人（リクロ舎）、オオヤミノル（オオヤコーヒ焙煎所）、軸原ヨウスケと中村裕太
参加人数　73名
参加費　500円（入退場自由／ドリンク代別）

アウト・オブ・民藝 vs 新しい骨董のブリッジトーク
開催日時　8月25日（日）14:00～16:00
会場　生活工房ギャラリー、セミナールームAB
講師　新しい骨董（下道基行／山下陽光）、アウト・オブ・民藝（軸原ヨウスケと中村裕太）
参加人数　123名
参加費　500円

2

1　会場風景（撮影：高見知香）
2　なかよしトーク
軸原ヨウスケ氏（右）と中村裕太氏（左）（撮影：高見知香）
3　アウト・オブ・民藝の芋蔓まつり「レコードトーク『民（衆）とは?』」
左から中村裕太氏、軸原ヨウスケ氏、田口史人氏、オオヤミノル氏
4　アウト・オブ・民藝の芋蔓まつり「スライドトーク『民藝の100年』」。花井久穂氏（右）
5　アウト・オブ・民藝 vs 新しい骨董のブリッジトーク
左から下道基行氏、山下陽光氏、中村裕太氏、軸原ヨウスケ氏

3

4

5

Exhibition 展覧会

山下陽光のおもしろ金儲け実験室

50代の声
つまらない世の中を、
おもしろくしてくれる企画。

1

途中でやめない実験の日々

パンチのあるタイトルである。なかでも「金儲け」がまぶしい。命名した山下陽光は、リメイクファッションブランド「途中でやめる」のデザイナーであり、『バイトやめる学校』の著者として知られている。同ブランドは設立20年を迎えた。

会場には、彼がフリーマーケットで仕入れた書籍や作品が並ぶ。その一角には「途中でやめる」の仕事場とショップが入居。山下氏のほか、〝リコちゃん〟、〝アンナちゃん〟が日替わりで縫製と接客を行った。二人は「途中でやめる」のお手伝いメンバーであり、それぞれ「cosmos dorm」「おてんばおばけ」というブランドを主宰している。ほかにも友人・知人による洋服販売、実演、ライブ、会場内にもうけた「ヒカちゃんギャラリー」での展示などを突発開催。山下氏は来場者から金儲け相談を受けていた。

居ることで場所になり、集まった人たちで「おもしろ金儲け」の実験がはじまっていく。山下氏がずっと実験してきたこと、その関心のありかが、手に取って試着できるような展覧会だった。

開催日時 2024年9月3日（火）～12月26日（木）
9:00～21:00
（祝日をのぞく月曜、11月10日休み）
会場 生活工房ギャラリー
来場人数 30,471名

5

2

3

4

1 「アウト・オブ・民藝」の会場をリメイクした展示室
2 会期中に出版したソーイングブック
『途中でやめないごまかしリメイク』（誠文堂新光社）
3 異色の組みあわせで好評を博したイベント※
4 壁面裏のヒカちゃんギャラリー。写真は荻田洋文展
5 山下陽光氏と途中でやめるの仕事場
–
撮影：馬込将充（※印の写真を除く）

関連企画

山下陽光のギャラリートーク
開催日時 9月7日（土）15:00～16:00
会場 生活工房ギャラリー
講師 山下陽光（ファッションデザイナー）
参加人数 51名
参加費 無料

調べ物の調べ方　カラー写真とワサビの場合
開催日時 12月7日（土）13:00～17:00
会場 ワークショップルームAB
ゲスト 衣川太一（フィルム資料研究家）、
山根京子（ワサビ研究者）
聞き手 山下陽光
参加人数 57名
参加費 1,000円

PART OF THE ANIMAL

Exhibition

動物と人間のあいだ

展覧会

動物の一部である私たち

太古の昔から人間は、動物をえがく／動物とえがく／動物でえがく、といった表現を続けてきた。本企画は、絵に描くだけはでない、詩や音楽や、演劇、踊りをも包括した〈動物をえがく〉ことについて、人類学・芸術学・生物学・比較文学の研究者たちが世界をフィールドにおこなった調査や、アーティストたちの思索をたどりながら「動物と人とのあいだ」の回路をひらくための展覧会である。

会場にはアーティストが制作した作品、研究者たちが調査地で採集した資料、映像、言葉を展示し、動物と人間とのまじわりの多様、または可能性を探った。そして、現代を生きる人間が「動物の一部（一員）である私たち」という感覚を取り戻すことの重要性について、深く考え・体感できる対談イベントやワークショップも開催した。

人間にとって動物とは？　動物にとって人間とは何か？　私という人間はどんな一匹の動物なのか。〈えがかれた動物たち〉は、私たちに深く問いかける。

開催日時　2025年1月21日（火）～4月20日（日）
9:00～21:00（休日をのぞく月曜休み）
会場　生活工房ギャラリー
来場人数　37,385名　※3月31日時点
企画制作　石倉敏明、丹羽朋子、山口未花子
協力　ArtSticker、北秋田市くまくま園、福島県立相馬高校放送局、峰岸有紀
関連企画協力　JSPS学術知共創プログラム「身体性を通じた社会的分断の超克と多様性の実現」、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所基幹研究人類学「社会性の人類学的探究：トランスカルチャー状況と寛容／不寛容の機序」、東京外国語大学フィールドサイエンスコモンズ（TUFiSCo）

20代の声
アーティストと研究者の協働というコンセプトが面白い！動物へのまなざしと解釈の多様性を知りました。

1

3

2

4

5

1　20名の研究者、アーティストが参加
2　長坂有希《Ethno-Remedies: Bedtime Stories ⇄ A Life's Manual》
3　五十嵐大介《ある旅人のはなし》
4　大石侑香「イタチ、オコジョ、シベリアリスの毛皮など」
5　フィールドワークの記録映像や音声作品を展示

–

撮影：澤木亮平

関連企画

トークイベント「動物と人間のあいだを考える」
開催日時　1月25日（土）13:30～16:30
会場　セミナールームAB
講師　五十嵐大介（漫画家）、石倉敏明（人類学者）、大石侑香（エスノグラファー）、大小島真木（アーティスト）、小田隆（画家、イラストレーター／大学教員）、鴻池朋子（アーティスト）、菅原和孝（人類学者）、丹羽朋子(人類学者)、根本裕子（陶芸家）、長谷川朋広（ゲームクリエイター／アートディレクター）、山口未花子（人類学者）
参加人数　86名
参加費　1,000円

ワークショップ
「ジェンダーとは？からだを動かして、楽しく学ぼう」
開催日時　2月8日（土）13:30～16:00
会場　セミナールームAB
講師　ケイトリン・コーカー（ダンサー／人類学者）
参加人数　29名　※小学3年生以下は保護者同伴
参加費　1,000円（保護者は無料）

ワークショップ
「バリ舞踊にみる自然―動物や植物で躍るからだ」
開催日時　2025年2月9日（日）13:30～15:00
会場　セミナールームAB
講師　吉田ゆか子（文化人類学者）、アナック・アグン・グデ・イスワラ・マンデラ（舞踊家）
参加人数　30名　※小学3年生以下は保護者同伴
参加費　1,000円（保護者は無料）

対談イベント
「動物をめぐる対話1――動物を狩ること、えがくこと」
開催日時　3月8日（土）13:30～16:00
会場　セミナールームAB
講師　齋藤亜矢（認知科学者）、竹川大介（人類学者／漫画家）、山口未花子（人類学者）
参加人数　60名
参加費　1,000円

対談イベント
「動物をめぐる対話2
――それぞれの環世界、共に動物である私たち」
開催日時　3月9日（日）13:30～16:00
会場　セミナールームAB
講師　石倉敏明（人類学者）、管啓次郎（詩人）、長坂有希（アーティスト）
参加人数　59名
参加費　1,000円

ワークショップ「動物とふれる、つくる、えがく」
開催日時　4月12日（土）13:00～17:00頃、
4月13日（日）10:00～15:30頃
会場　ワークショップルームAB
講師　石倉敏明（人類学者）、永沢碧衣（アーティスト）、西澤真樹子（なにわホネホネ団団長／大阪市立自然史博物館外来研究員）、長谷川朋広（ゲームクリエイター／アートディレクター）、盛口満（作家／イラストレーター／理科教師）、山口未花子（人類学者）
参加費　①3,000円（二日間通し参加）、②1,000円（4月12日のみ参加）

《特別企画》
ギャラリーパフォーマンス
開催日時　2月8日（土）17:00～17:20
会場　生活工房ギャラリー
講師　ケイトリン・コーカー（ダンサー／人類学者）、アナック・アグン・グデ・イスワラ・マンデラ（舞踊家）
参加人数　50名
参加費　無料

Workshop / Seminar

ワークショップ／セミナー

Workshop / Seminar

ワークショップ／セミナー

ワークショップ

世田谷うまれのリソグラフ®印刷であそぼう！

日常を見限らない

バランスのワークショップ

対話の効能

〈わたし〉と〈あなた〉のあわい vol.2

老人性アメイジング！ vol.2

寿ぎと分解

Exhibition

展覧会

生活工房アレコレ2024 8ミリフィルム常設上映

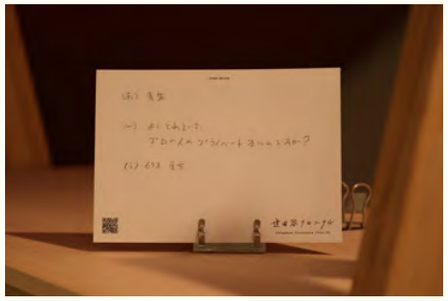
8ミリでのぞく、昭和のアレコレ

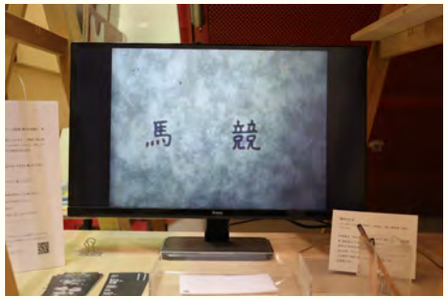
「生活工房アレコレ」は、2021年4月から展開している小さな展示コーナーだ。生活工房のバックヤードに眠る事々物々や、開催中の展覧会やイベントに関する資料の紹介を目的に開設している。

昨年度から引き続き、ウェブサイト「世田谷クロニクル」（25頁参照）で公開中の8ミリフィルム映像を常設で上映。ラインナップは、1937（昭和12）～1983（昭和58）年にかけて撮影された12巻。各映像の撮影月にあわせて、毎月8日に映像を入れ替えながら通年で展示した。世田谷区太子堂など身近な場所から、盧溝橋事件の年に撮影された奈良公園まで、さまざまな時代や場所が記録されている。

会場では、来場者が映像をきっかけに思い出したエピソードを募った。「住宅は畳部屋が基本。ベッドで寝るのは少数派」「自転車がママチャリではなく実用車なのが良い」「今は両サイドとも屋根付きのアーケード歩道になっている」など、多くの声が寄せられた。集まったエピソードは、SNS等でも紹介している。

1


2



3

4

5

1　生活工房アレコレの展示風景
2　カード立てに感想を残す
3　モニターでループ上映
4　『ボロ市パレード』（1983［昭和58］年1月／世田谷代官屋敷、桜小学校／3:25）
5　『千寿子と愼君』（1972［昭和47］年4月29日など／自宅［松原］、高幡不動、横浜港など／20:05）

開催日時　2024年4月9日（火）～2025年4月6日（日）
9:00～21:00
（祝日をのぞく月曜および年末年始休み）
会場　生活工房ギャラリー（階段下）
来場人数　70,807名　※3月31日時点
企画制作　remo［NPO法人記録と表現とメディアのための組織］

ワークショップ 世田谷うまれのリソグラフ®印刷であそぼう！

50代の声
手作りと機械との組み合わせがおもしろかった。出来上がるまでのワクワク感と緊張感が楽しかったです。

1

リソグラフ®印刷のしくみを知り、楽しむ

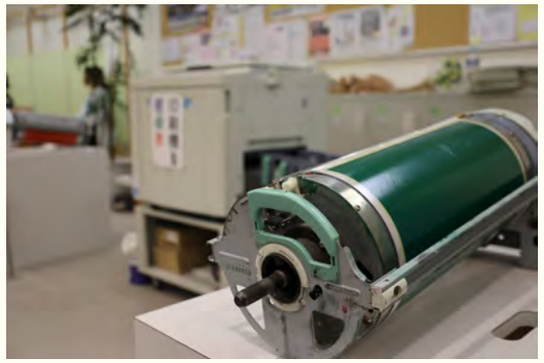
「市民活動支援コーナー」の印刷機を活用したワークショップ。リソグラフ®印刷やD.I.Y.のスタジオを運営するHand Saw Pressの方々を講師に迎えて開催した。学校や児童館などのおたよりでおなじみのリソグラフ®印刷は、アナログで懐かしいものと思われがちだが、その独特な風合いとインクの重なりが生み出す複雑な表現で、近年再注目されている。

その印刷機を製造したのは、1946年に世田谷区若林で謄写印刷（ガリ版）業として創業した理想科学工業株式会社。「リソグラフ®」は、その原形が世田谷で誕生したデジタル印刷機である。

今回のワークショップでは、幅広い年齢層の参加者が集い、2色印刷のポストカードを制作した。イラストや文字、家族の写真などをレイアウトして2色分の版を作り、製版・印刷する。図案の重なるところに新たな色が生まれ、版画のようなおもしろい表現が生まれた。それぞれのデザインに、リソグラフ®の新たな可能性を感じる機会となった。

※「リソグラフ®」は理想科学工業株式会社の登録商標または商標です［登録商標第5536951号］

開催日時　2024年8月10日（土）、11日（日・祝）
①10:30～ ②11:00～ ③11:30～
④12:00～ ⑤12:30～ ⑥15:00～
⑦15:30～ ⑧16:00～ ⑨16:30～
⑩17:00～／各回完結
会場　市民活動支援コーナー
講師　安藤僚子、菅野信介（Hand Saw Press）
対象　小学3年生以上（大人参加可）
参加人数　139名
参加費　500円



2

3

4

5

1 大切な人に気持ちを伝えるポストカードをつくろう
2 リソグラフ印刷機にセットするドラム
3 印刷の仕組みを学び、つくろう
4 スタンプやちぎった紙などなんでもデザインの素材になる
5 色や形の重なるところに、新たな色や模様が生まれる

バランスのワークショップ

日常を見限らない

1

バランスとアンバランスが織りなす世界

日常生活の中で見落とされた無数の出来事を、研究者やアーティストとともに五感を使って味わい直すワークショップ・シリーズ第4弾。今回は、環境や身体におけるバランスについて、学び・体験した。

［Talk］では、独立研究者の森田真生氏が、人間の体・環境・生命のバランスについて、ミクロとマクロを行き来しながら壮大なスケールで講演を行った。

［Workshop］は、美術家・建築家の荒川修作＋マドリン・ギンズが手掛けた極彩色の住めるアート「三鷹天命反転住宅」を舞台とした。凸凹かつ傾斜のある床や音が反響する球体の部屋など、知覚や身体感覚を呼び覚ますように設計された場で、2つのワークを行った。

［見学体験ツアー］では、住宅に込められた思想や仕掛けについて解説を聞きながら空間を体験した。［身体発見ダンス］では、振付家・ダンサーの砂連尾理氏とともに、アンバランスに満ちた空間を味わいながら、眠っていた記憶や身体感覚を再発見するダンスを行った。

2

30代の声

極めて非日常的な場を味わいながら、視覚、触覚、聴覚が揺さぶられるWSでした。

Talk
バランスからとらえる身体・生命の不思議
開催日時　2024年9月7日（土）13:00〜15:00
会場　ワークショップルームAB
講師　森田真生（独立研究者）
対象　10代以上
参加人数　51名
参加費　1,500円

Workshop
降り立つ場 アンバランスから生まれる新しい日常
会場　三鷹天命反転住宅 イン メモリー オブ ヘレン・ケラー（東京都三鷹市大沢2-2-8）
対象　5歳以上（小学3年生以下は保護者同伴、要参加費）
参加費　各日1,000円

—

①見学体験ツアー
開催日時　2024年10月5日（土）、6日（日）10:30〜12:30
講師　荒川修作+マドリン・ギンズ東京事務所 学芸担当スタッフ ARAKAWA+GINS Tokyo Office
参加人数　40名

—

②身体発見ダンス
開催日時　2024年 10月5日（土）、6日（日）14:30〜17:30
講師　砂連尾理（振付家／ダンサー）
参加人数　31名

協力　荒川修作+マドリン・ギンズ東京事務所

3

4

5

1 三鷹天命反転住宅の見学ツアーを終えて
2 森田真生氏によるTalkの様子
3 見学体験ツアーの様子
4 身体発見ダンスで自由に踊る様子と球体の部屋での記念撮影
5 身体発見ダンスでワークをする様子

対話の効能
〈わたし〉と〈あなた〉のあわい vol.2

10代の声
講演で知識を得られるだけでなく実践して参加者とコミュニケーションがとれるのが良かった。

1

〈生きづらさ〉に変化が訪れるとき

予想外の新しい視点や関係を創造したり、自分の信念に変化が起こるなど、様々な効能が注目されている対話。対話を中心に据えた多様なアプローチについて学び・体験しながらその可能性を再考するセミナー第2弾。

［自助グループとグループカウンセリング］前半では、カウンセリングの歴史的変遷と実践例について学んだ。後半では、「アイメッセージ」や「マジックショップ」など心理劇を応用しながらカウンセリングを体験した。

［修復的正義］前半は、高校で起きた銃乱射事件の被害者家族と加害者家族の対話をテーマとした映画『対峙』を鑑賞した。後半は、修復的正義の概説を聞き、対話の手法のひとつである「メディエーション」のエッセンスを体験した。

［当事者研究］前半は、当事者研究の思想的背景や効能と応用可能性について伺った。後半は、自身の困りごとから研究テーマを決めて、エピソードを思い起こしながら年表やパターンを作成し、語り合いながら当事者研究を体験した。

2

自助グループとグループカウンセリング
開催日時　2024年11月24日（日）13:00〜18:30
会場　ワークショップルームAB
講師　信田さよ子（公認心理師／臨床心理士）、本多清見（公認心理師／臨床心理士）
参加人数　160名
参加費　1,500円（講演+対談）、2,500円（講演+対談+体験）

修復的正義
開催日時　2024年12月14日（土）10:00〜18:30
会場　東京大学 駒場Ⅰキャンパス 18 号館ホール（東京都目黒区駒場3-8-1）
講師　小松原織香（東北大学大学院文学研究科准教授）、田中圭子（一般社団法人メディエーターズ代表理事）
参加人数　164名
参加費　1,000円（上映）、1,500円（講演+対談）、3,500円（上映+講演+対談+体験）

当事者研究
開催日時　2025年1月12日（日）13:00〜18:30
会場　東京大学 駒場Ⅰキャンパス 18 号館ホール
講師　熊谷晋一郎（東京大学先端科学技術研究センター教授）、綾屋紗月（東京大学先端科学技術研究センター特任准教授）
参加人数　189名
参加費　1,500円（講演+対談）、2,500円（講演+対談+体験）

対象　10代以上
協力　東京大学大学院総合文化研究科・教養学部附属共生のための国際哲学研究センター（UTCP）

記録映像
（公開予定）

3

4

5

1　信田さよ子氏による講演
2　「当事者研究」の体験
3　心理劇を応用したカウンセリング体験
4　「修復的正義」講演と体験の様子
5　「当事者研究」講演とデモストレーション

地域と市民活動

Local Community

Local Community

地域と市民活動

第23回
おはなしいっぱい

ちかくのとーく

穴アーカイブ：an-archive
せたがやアカカブの会

エトセトラの時間
見えるものと
見えないものを語る会

共催事業
第5回せたがや居場所サミット

『三世代遊び場図鑑』
復刊記念シンポジウム

世田谷市民活動支援会議

市民活動支援コーナー

老人性アメイジング！ vol.2 ——寿ぎと分解

老いと死のパラダイムシフト

小噺、演奏、講演、トークなど多彩なコンテンツを通して、ネガティブに捉えがちな「老いと死」のイメージを積極的に更新するアメイジングなイベント第2弾。

［老いと寿ぎ］村瀬孝生氏によるユーモラスな「介護小噺」と、ピアニストの坂本姉妹による既存の音楽観を解きほぐすピアノ作品の演奏を交えながら、老いゆくことの悲喜交々や不可思議さが寿がれるあり方を探った。トークでは、村瀬氏の著作『シンクロと自由』に描かれたお年寄りと介護者が試行錯誤する「ふたりの私」の関係性と、坂本姉妹がデュオ作品を仕上げる創作過程に共通点を見出し、意外なシンクロに会場が盛り上がった。

［死と分解］村瀬孝生氏が、自然循環から独自に捉え直した死生観や数多く併走してきた看取り体験について語った。また藤原辰史氏が、分解の視点から生死のあわいの豊潤さを紐解く講演を行った。トークでは、人間の老いや死を大きな循環の中に位置づけ、より自由な人間観や死生観について語り合った。

記録映像
（公開予定）

老いと寿ぎ
開催日時　2025年2月9日(日) 14:00〜18:00
会場　東京大学 駒場Iキャンパス
駒場コミュニケーション・プラザ北館2F 音楽実習室
（東京都目黒区駒場3-8-1）
ゲスト　坂本彩・坂本リサ（ピアニスト）、
村瀬孝生（「宅老所よりあい」ほか統括所長）
参加人数　110名

死と分解
開催日時　2025年3月22日(土) 13:00〜18:30
会場　東京大学 駒場Iキャンパス
21 KOMCEE West B1F レクチャーホール
ゲスト　藤原辰史（京都大学人文科学研究所准教授）、
村瀬孝生
参加人数　136名

対象　10代以上
進行　山内泰（一般社団法人大牟田未来共創センター理事）
参加費　3,000円（自由席）
協力　東京大学大学院総合文化研究科・教養学部附属共生のための国際哲学研究センター（UTCP）、東京大学大学院総合文化研究科・教養学部ピアノ委員会

1

2

3

1 坂本彩氏・坂本リサ氏のトークと村瀬孝生氏の小噺
2 村瀬孝生氏と山内泰氏のトーク
3 坂本リサ氏・坂本彩氏によるデュオ演奏

第23回 おはなしいっぱい

世田谷区内で活動する おはなしの会が大集合！

小学一年生の声
うしさんと、くまさんの人形劇が楽しかった!

1

「世田谷おはなしネットワーク※」と共催する本企画は、夏休み期間中の3日間におはなし会「おはなしいっぱい」を開催している。構成、演出、出演、準備のすべてを出演者が行う市民の手づくり企画として回を重ね、23回目を迎えた。

新型コロナウイルス感染症拡大などによって、オンラインによる開催に変更していたが、今年は5年ぶりの対面開催となった。幼児から小学生まで対象年齢を分けた幅広いプログラム構成で、紙芝居・手あそび・わらべ唄・パネルシアターなど多彩な演目を披露。今年度は、四国地方で活動する市民グループ（BUNちゃんとわけちゃん）をゲストに招き、地域を超えた交流も行われた。そのほか、世田谷の図書館や児童館などと連携してプログラムを組み、区立施設との関わりを強化することで、地域ネットワークの構築に取り組んだ。

5年ぶりのリアル開催となったが、世田谷おはなしネットワークの会員は長年の活動で培ったノウハウを存分に活かし、参加者を大いに楽しませていた。

※1997年活動開始。世田谷区内で活動する複数のおはなしの会が連携し、図書館などで活動中。現在、60のグループ・個人会員から成る。

開催日時	2024年8月21日（水）～8月23日（金）11:00～15:00（21日のみ 11:20～）
会場	ワークショップルームAB
出演	世田谷区立図書館、成城さくら児童館、おはなし*さいた、BUNちゃんとわけちゃんのパネルシアターでSHOW、おはなし星の子、おはなしおもちゃ箱、百音の樹、パークシティー溝の口 おはなしの森、グレーテルの会、高柳芳恵、ありのママ、おはなし結、ひつじ会、弦巻児童館、にじいろのたね、大島塾（順不同）
対象	幼児～小学生（大人も参加可）
参加人数	のべ953名
参加費	無料
共催	世田谷おはなしネットワーク

2

3

4

5

1 16グループの出演者が手づくりの演目を披露
2 子ども達が「おはなし」に耳を傾けた
3 手遊びを楽しむ乳幼児と保護者
4 会場内で販売したオリジナルクッキー
5 世田谷おはなしネットワーク会員と参加者の交流

ちかくのとーく

ちかくの活動をちかくの人に紹介するトークシリーズ

世田谷区内のまちづくりや市民活動、地域に関わる文化活動について、ゲストを招いてじっくりお話を伺うトークプログラム。2021年度にキックオフしてから4年目となる。

今年度も3本のプログラムを開催。「住民にきく、成城の百年とこれからのこと」では、成城というまちが誕生して100年という節目の年に、その成り立ちや風景の変遷を住民目線でご報告いただいた。「となり近所の、食を通じた地域福祉のこと」では、ともに30年以上活動を続ける地域福祉の団体をゲストに招き、高齢者への配食サービスや地域食堂のこれまでと現在を紹介。「玉川田園調布の、ご近所とコミュニティのこと」では、建築というハードとまちづくりというコミュニティの関係について、玉川田園調布での活動を事例に学ぶ機会となった。

およそ4か月に1度開催した本企画。いずれも対面とオンラインで開催しているが、区外からの参加者も少なくない。身近で実践している人々の声を通して、地域社会のこれからを考えていきたい。

vol.07 住民にきく、成城の百年とこれからのこと
開催日時　2024年5月12日（日）14:00〜16:00
ゲスト　荒垣恒明（成城学園教育研究所）、岩村徹（成城自治会副会長）
参加人数　会場 21名、オンライン 20名

vol.08 となり近所の、食を通じた地域福祉のこと
開催日時　2024年10月14日（月・祝）14:00〜16:00
ゲスト　平野覚治（社会福祉法人ふきのとうの会）、佐光正子（NPO法人コミュニティ・ネットワーク・ウェーブ）
参加人数　会場 11名、オンライン 21名

vol.09 玉川田園調布の、ご近所とコミュニティのこと
開催日時　2025年1月26日（日）14:00〜16:00
ゲスト　伊藤雅春（NPO法人玉川まちづくりハウス）、木下壽子（有限会社コミュニティー・ハウジング）
参加人数　会場5名、オンライン6名

会場　セミナールームB、オンライン
進行　市川徹（まちづくりコーディネーター）
記録　千葉晋也（まちづくりデザイナー）
参加費　会場200円、オンライン無料

企画制作　株式会社世田谷社

1 開催中の様子
2 会場とオンラインのハイブリッドで開催
3 グラフィックレコーディングも
4 最後は書道で一言まとめ
5 ここでしか聞けない地域の話

1

2

3

4

5

穴アーカイブ: an-archive
せたがやアカカブの会

エトセトラの時間
見えるものと見えないものを語る会

8ミリフィルムをのこす、みる、はなす

世田谷区民から提供いただいた84巻の8ミリフィルムを公開しているウェブサイト「世田谷クロニクル」。映像の利活用の一環として、2つのプログラムを実施した。

「せたがやアカカブの会」は、少人数で映像を囲み、参加者自身の経験や気付いたことを語る企画。自分の視点で話すこと、相手の声に耳を傾けることを大事にして、同じシーンを繰り返し見る経験は、ほかにはない映像の鑑賞体験となった。フィルムの一部に記録された断片、たとえば掃除機のかたちといった見逃してしまう事物から、個々人の記憶が掘り起こされていく。

「エトセトラの時間」は、目の見えない人がナビゲーターとなって映像を鑑賞するオンラインプログラムだ。アカカブの会と同じく、会話することが醍醐味だが、サブタイトルの通り「見える」「見えない」を重視している。また、プログラムの音声記録「会話録」をYouTubeで公開した。

本プロジェクトは、次年度で10年目を迎える。集まった映像の利活用を生活工房の内外へと広げていきたい。

せたがやアカカブの会
開催日時　vol.38：2024年6月2日（日）、vol.39：2024年10月6日（日）、vol.40：2025年1月19日（日）14:00〜15:30
会場　ワークショップルームA（vol.40のみセミナールームB）
参加人数　41名
参加費　無料
企画制作　remo［NPO法人記録と表現とメディアのための組織］

エトセトラの時間
見えるものと見えないものを語る会
開催日時　①2024年7月15日（月・祝）、②2025年1月18日（土）14:00〜16:30
会場　オンライン（Zoomミーティング）
参加人数　12名
参加費　無料
企画制作　視覚障害者とつくる美術鑑賞ワークショップ、remo［NPO法人記録と表現とメディアのための組織］

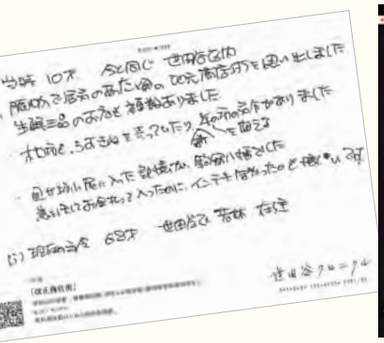
1 せたがやアカカブの会の様子
2 エトセトラの時間の様子
3 映像から思い出したことはハガキに記入
4 会員のハガキは生活工房で保管
5 ハガキは郵送でも受け付けている

3

4

1

2


5

20代の声
少人数で濃密な感想共有ができた。

60代の声
地域で支えあうことの大切さがわかり、ボランティアとして自分も一歩踏み出したいと思った。

共催事業

『三世代遊び場図鑑』復刊記念シンポジウム

世田谷のまちづくり

地域の教育機関やNPO団体と連携して実施する「共催事業」の枠組みの中で、今年度はまちづくりにかかわる2つのイベントを開催した。

第5回せたがや居場所サミットは、「ケアする社会は『居場所』から」を副題に、子ども、若者、高齢者、外国人など、様々な対象にむけた居場所づくりに取り組んでいる区内の団体が集まり、パネル展示やトークリレーを行った。地域共生社会のためのネットワークづくりの場として多くの関係者が集まり、会場は熱気に包まれた。

『三世代遊び場図鑑』は、生活工房のある世田谷区太子堂で40年以上前に行われた、三世代107人を対象とした、子どもの頃の遊び場開き取り調査をもとにした本。1984年に初版が発行され大きな反響を呼んだものの、長らく絶版状態だった。同書の待望の復刊を記念して開催したシンポジウムでは、トークセッションのほか全国に展開した遊び場マップの展示を行った。

1

2

3

4

5

1 居場所サミット、参加団体によるパネル展示の様子
2 失われた「まち」を取り戻すため、帰ってきた三世代遊び場図鑑！
3 参加団体によるトークリレーも白熱した居場所サミット
4 トーク内容をライブで記録するグラフィックレコーディング
5 各地で制作された遊び場マップの展示

第5回せたがや居場所サミット
日時　2024年5月25日（土）11:00～16:00
会場　ワークショップルームAB
参加人数　167名
参加費　無料
共催　せたがや居場所サミット実行委員会

『三世代遊び場図鑑』復刊記念シンポジウム
日時　2025年2月24日（月・祝）13:30～16:30
会場　セミナールームAB
参加人数　51名
参加費　無料
共催　三世代遊び場図鑑復刊記念シンポジウム実行委員会

40代の声
三世代遊び場マップの活動がとても意義深い取り組みだったと感じました。

世田谷市民活動支援会議

世田谷市民活動支援会議（通称：Netty）は、「より良い地域社会をつくるための市民活動」を支えるネットワーク。行政である世田谷区と、施設運営や助成金の提供、活動相談など多様なかたちで市民活動を支援する6つの中間支援組織で構成されている。

今年度は、リモートだった連絡会議が対面に戻り2回開催。世田谷区役所の新庁舎に「区民自治と協働・交流の拠点としての庁舎」の実現をめざして計画されている区民利用・交流拠点施設について、意見交換を行った。また、毎年作成している市民活動に役立つ情報をまとめた冊子『せたがや市民活動知っ得情報2025』を発行した。

ほかの構成団体　世田谷区生活文化政策部市民活動・生涯現役推進課、社会福祉法人世田谷区社会福祉協議会、一般財団法人世田谷トラストまちづくり、社会福祉法人世田谷ボランティア協会、特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会、社会福祉法人共生会SHOWA、

市民活動支援コーナー

市民団体の活動をサポート

世田谷区内で活動するさまざまな団体を支援する場。日常的な会合や講座に利用できる貸出スペース、活動のためのチラシやポスター、冊子を作成できる印刷機や大判プリンター、紙折り機などを常備している。また、情報掲示板やチラシラックでは、登録団体のイベント情報の告知やメンバー募集なども可能。

市民活動団体のニーズを的確に汲み取り、柔軟に対応するため、運営を中間支援組織であるNPO法人国際ボランティア学生協会（IVUSA）に委託。10月には、「世田谷アートタウン 三茶de大道芸」に合わせて「市民活動体験喫茶パオ」を開催。登録団体のさまざまな活動を体験コーナーや喫茶スペースでの交流を通じて紹介した。

1

2

1 貸出スペースの仕切り幕をリニューアルして、巻き上げ可能に。
2 市民活動喫茶パオの様子

場所　生活工房3F
開館時間　9:00～21:00（月曜休館）
委託先　特定非営利活動法人国際ボランティア協会（IVUSA）
来場人数　8,884名（2024年4月1日-2025年3月31日）

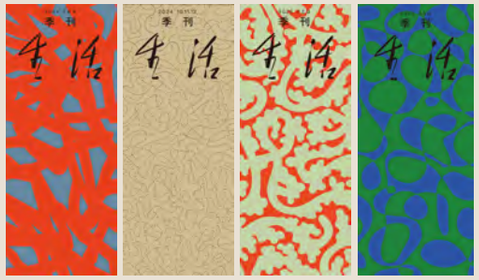
生活工房 広報事業（2024.4.1–2025.3.31）

印刷物発行

情報紙を年4回発行し、生活工房の事業を紹介した。区内施設や全国の文化施設等で配架して施設全体の周知を図るとともに、デジタル化された情報では受け取ることが難しい層にも情報提供した。

–

季刊生活（2024年7.8.9月号〜2025年4.5.6月号）
発行部数：各7,000部



ソーシャルメディア

SNSを通じた広報活動を積極的に行い、いずれのソーシャルメディアでもフォロワー数を着実に伸ばした。投稿は地域特有の話題や季節の情報を効果的に活用し、親近感のある情報配信に注力した。

–

@setagaya_ldc
フォロワー数：2,805名

@setagaya_ldc
フォロワー数：3,152名

facebook.com/setagayaldc
フォロワー数：1,708名

広報掲実績

メディア向けにプレスリリースを配信。取材対応や記事掲載対応等を実施した。

–

新聞：9件
雑誌：14件
WEB：120件
TV·ラジオ：4件

取材撮影協力・会場提供

·誠文堂新光社『途中でやめないごまかしリメイク』（山下陽光著）
·WEBサイト「BESSカルチャー」

ウェブサイト

生活工房の施設案内、事業予定、募集情報、展覧会レポートなどを掲載して情報発信した。ユーザー目線を意識した分かりやすく見やすいウェブサイトを目指し、サイト内コンテンツの改善も図った。

–

生活工房ウェブサイト
https://www.setagaya-ldc.net
ページビュー数：371,338件

商業施設等との連携広報・地域連携

世田谷区内の書店でブックフェアを開催して地域連携を図った。初の試みとして書店内でのトークイベントも実施し、84名が参加した。

–

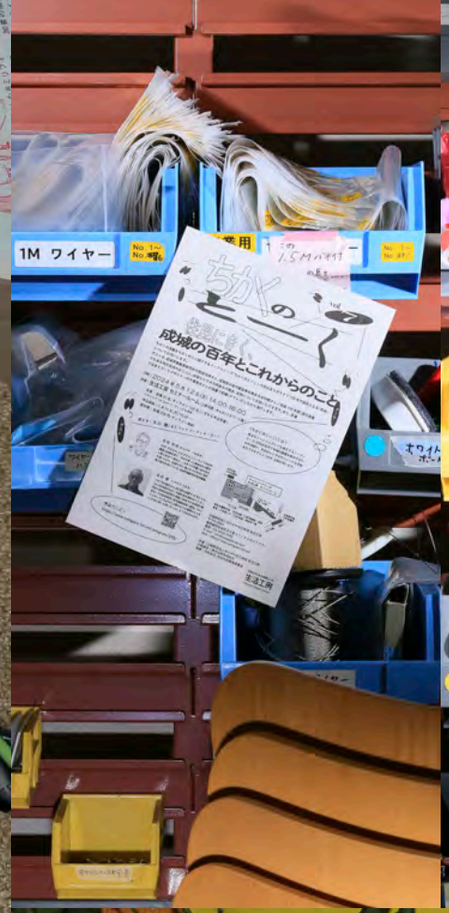
ブックフェア開催店舗
・twililight
〒154-0004 東京都世田谷区太子堂 4-28-10 鈴木ビル3F·屋上
・nostos books
〒157-0073 東京都世田谷区砧5-1-18 102号室
・本屋 B&B
〒155-0033 東京都世田谷区代田2-36-15 BONUS TRACK 2F

–

トークイベント
山口未花子×石倉敏明×鴻池朋子
「フィールドがつなぐ、アートと人類学」
日時：2025年3月9日（日）19:00〜21:00
会場：本屋B&B

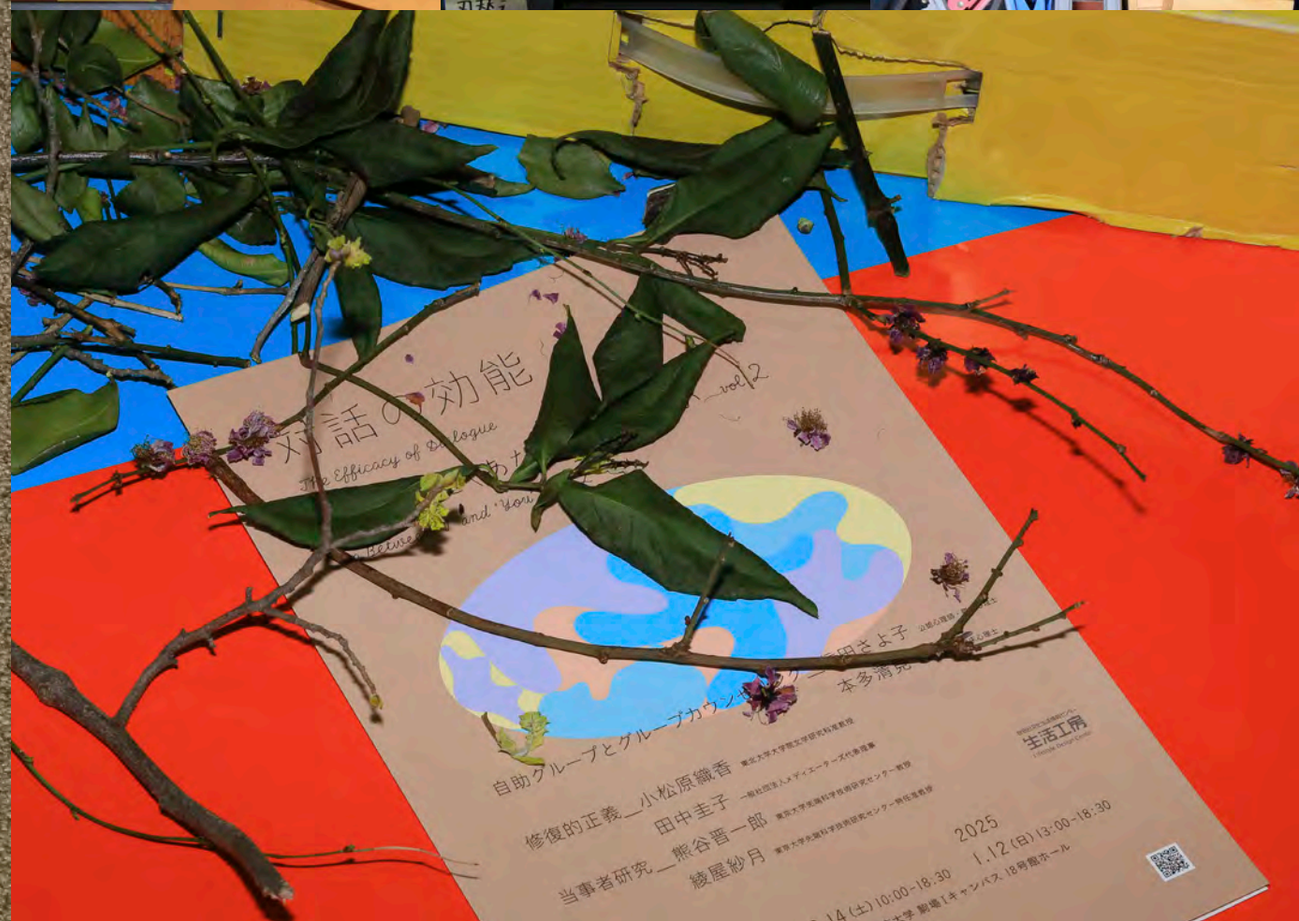
本屋B&B ブックフェア会場

エトセトラの時間
見えるものと見えないものを語る会
2025
1/18
土


1M ワイヤー
ちがのこと
成城の百年とこれからのこと

クレヨン
ふせん紙
コンテ
シャープペン
ちがのこと
ハサミ学習用
カッター(大)

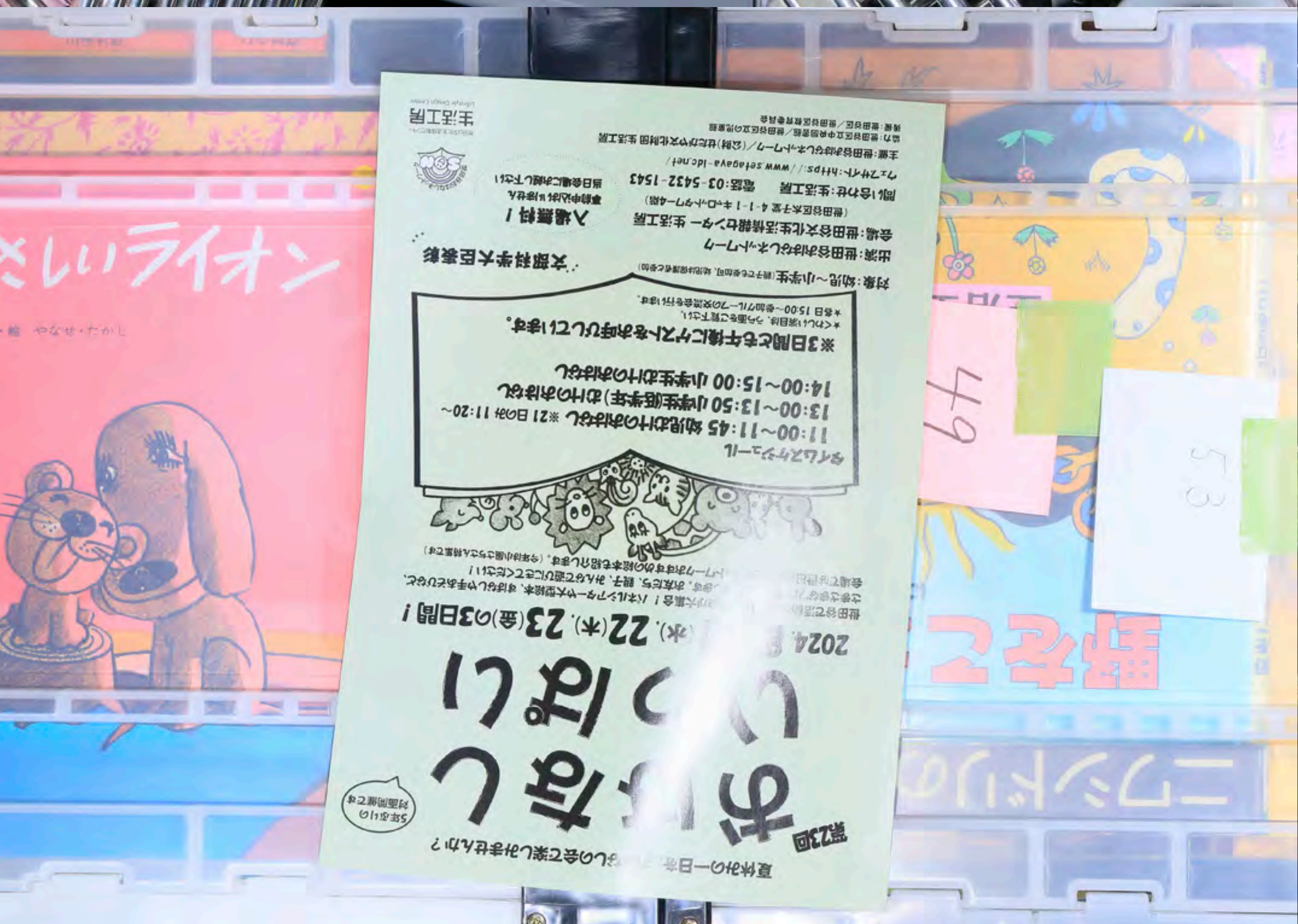
色エンピツ
蛍光ペン
マーカー
ちがのこと
ご近所とコミュニティのこと


対話の効能
The Efficacy of Dialogue
自助グループとグループカウンセリング
修復的正義＿小松原織香
田中圭子
当事者研究＿熊谷晋一郎
綾屋紗月
2025
1.12(日)13:00-18:30
生活工房

A
B
PART
OF
THE

MEISTER
生活工房
STAFF

WORK SHOP
世田谷うまれの
リソグラフ印刷で
あそぼう！
2024年8月10日(土)・8月11日(日)
生活工房

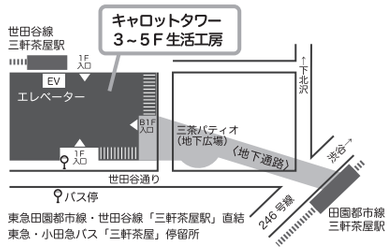

第23回
おはなし
いっぱい
2024
22(木)、23(金)の3日間！
入場無料！
生活工房

老人性アメイジング！
寿ぎと分解
vol.2
坂本リサ
藤原辰史
生活工房
2024.9.3→12.26
10000

アウト●オブ●民藝
民衆藝術
郷土藝術
民俗
農民

生活工房は、地域の人々の活動や発表の場！

生活工房では多彩な設備を備えたスペースで独自の企画を行うほか、市民団体などにお部屋を貸し出しています。スペースごとに登録条件・利用方法などが異なりますので、詳細はお問い合わせください。



世田谷文化生活情報センター
生活工房
Lifestyle Design Center

休館日・管理休館日：年末年始・月曜日（祝日の場合は除く）
所在地：東京都世田谷区太子堂4-1-1　キャロットタワー
TEL：03-5432-1543
URL：https://www.setagaya-ldc.net

5F

講演会やミーティングに最適

「セミナールーム」は、講習会や会議に適したスペースです。プロジェクターを含む映像・音響設備も備え、効果的なプレゼンテーションが可能です。A・B各部屋の可動式間仕切りを外せば最大で120名（机椅子使用時は108名）まで収容できます。

セミナールームA

貸出対象スペース

74㎡／定員48名／利用時間9:00～22:00

セミナールームB

貸出対象スペース

83㎡／定員48名／利用時間9:00～22:00

4F

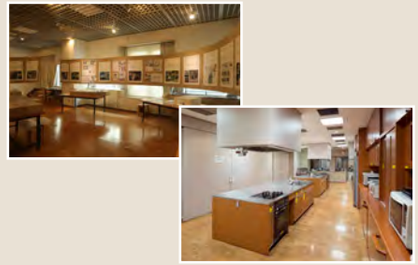
ものづくりや展示を楽しむ

「ワークショップルームA」は、ものづくりやトークイベントに対応したスペースで、併設されたキッチン（63㎡）には、各種厨房用品も備えています。多人数の交流会にも最適です。
「ワークショップルームB」は、扇形の壁面が特徴的な展示スペースです。可動パネルで室内のレイアウト変更ができ、多様な展示が行えます。音響や映像機器を使った集会等の開催も可能です。

ワークショップルームA

貸出対象スペース

126㎡／定員50名／利用時間9:00～22:00



ワークショップルームB

貸出対象スペース

145㎡／定員50名／利用時間9:00～22:00

3F

生活工房の展示や市民活動の拠点

「生活工房ギャラリー」は、暮らしのデザインやクラフト、異文化紹介などをテーマに、生活工房が主催する企画展示を行っています（一般への貸出はしていません）。
「市民活動支援コーナー」は、世田谷で活動している市民活動団体が打ち合わせや作業を行うことができるスペースです。パソコンや印刷機などの利用も可能です（登録制・有料）。

生活工房ギャラリー

開館時間：9:00～21:00

市民活動支援コーナー

利用時間：9:00～21:00　TEL：03-5432-1511

トップページ
施設案内
クラシーとカワルンの「生活工房っていったいどんなところなの?」

次年度のお知らせ

2025年度展覧会のご案内

4月29日（火・祝）～8月11日（月・祝）
ヘアカラー展　なぜ染める、なぜ染まる。

8月19日（火）～12月28日（日）
昭和の子ども文化
―資料が語る・戦争と平和の子どものくらしと遊び（仮）

ご支援・ご協力いただいた
企業、団体、教育・公共機関等（各50音順・敬称略）

共催：三世代遊び場図鑑復刊記念シンポジウム実行委員会、せたがや居場所サミット実行委員会、世田谷おはなしネットワーク

協力：アジア・アフリカ言語文化研究所基幹研究人類学「社会性の人類学的探究：トランスカルチャー状況と寛容/不寛容の機序」、ArtSticker、荒川修作+マドリン・ギンズ東京事務所、大平農園、株式会社世田谷社、北秋田市くまくま園、行山流舞川鹿子躍、視覚障害者とつくる美術鑑賞ワークショップ、東京外国語大学フィールドサイエンスコモンズ（TUFiSCo）、東京大学大学院総合文化研究科・教養学部ピアノ委員会、東京大学大学院総合文化研究科・教養学部附属共生のための国際哲学研究センター（UTCP）、日本学術振興会学術知共創プログラム「身体性を通じた社会的分断の超克と多様性の実現」、福島県立相馬高校放送局、理想科学工業株式会社、remo［NPO法人記録と表現とメディアのための組織］

助成：京都精華大学 芸術表現助成、JSPS科研費19K13479・23H03899C03・24H02199・24H0219814・23K20129助成

後援：世田谷区、世田谷区教育委員会

生活工房アニュアルレポート2024

発行日：2025年4月28日

編集　桜井 祐、篠原 繭（TISSUE Inc.）、生活工房
デザイン　北岡誠吾
写真　大野真人（表紙+フライヤーギャラリー）
印刷　株式会社山田写真製版所
協賛　株式会社東急コミュニティー
発行　公益財団法人せたがや文化財団　生活工房
〒154-0004東京都世田谷区太子堂4-1-1キャロットタワー
電話：03-5432-1543　ファックス：03-5432-1559
メール：info@setagaya-ldc.net
https://www.setagaya-ldc.net

本書の無断転写、複製、転載を禁じます。
©Setagaya Arts Foundation Lifestyle Design Center 2024-2025
Printed in Japan

生活工房アニュアルレポートとは――
生活工房の1年間の活動をまとめた記録・報告書です。

数字で見る
生活工房
（2024.4.1–2025.3.31）

来場者数

来場者総数

221,367

展覧会	181,418人
展覧会関連イベント	731人
ワークショップ・セミナー	881人
地域と市民活動	10,331人
貸館使用者・来場者	28,006人

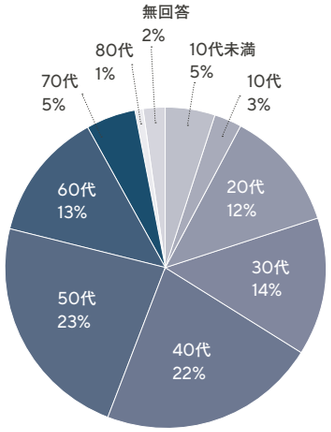
事業数

事業総数

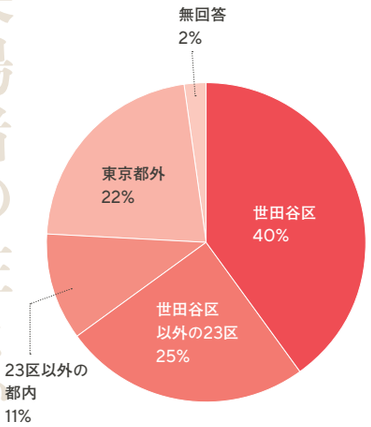
47

展覧会	5件
展覧会関連イベント	16件
ワークショップ・セミナー	10件
地域と市民活動	16件

来場者の年代

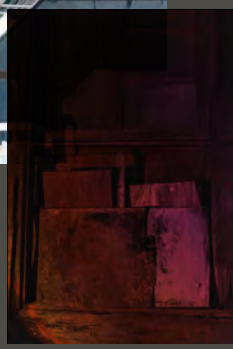


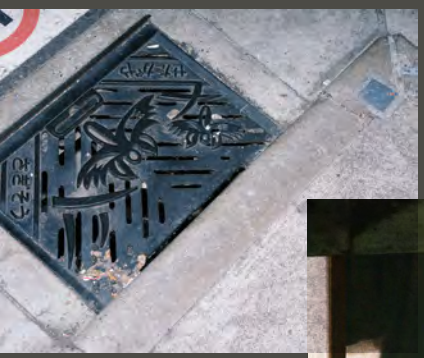
来場者の住まい



展覧会「世田谷のまちと暮らしのチカラ～まちづくりの歩み50年」（2024年4月1日～21日）の来場者数、
関連企画「ギャラリートーク」（4月7日／13日／21日）、「公開資料整理会 特別編③ 都市デザイン室の仕事」（4月13日）、
「みんなでお散歩ゼミナール　マップDXアプリ編」（4月14日）の参加者数を含む

2024年度
来場者アンケートのデータより
（2024年4月1日–2025年3月31日）





世田谷文化生活情報センター
生活工房
Lifestyle Design Center
〒154-0004
東京都世田谷区太子堂 4-1-1 キャロットタワー
tel. 03-5432-1543
https://www.setagaya-ldc.net

三角地帯のはじまりを辿る

FIELD NOTE

三軒茶屋の駅近く、「三角地帯」と呼ばれるエリア。取り残された「間」のような不思議な味わいのあるところです。そのはじまりを考えようと三茶を探って歩き、三角地帯を観察してみました。元はといえば村と村の「間」だったというこの三角形。過去の手触りを残すモノや地形、街路や建物は、そのままこの街の歴史の痕跡であり、東京に古くから残る場所に共通する特徴でもあって、そして何より、面白い——この冊子は、そんな発見と観察のノートです。

目次

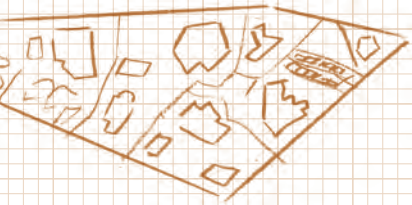
02 第1章 三軒茶屋のはじまりを考えて歩く
14 第2章 三角地帯の中を歩く
32 三軒茶屋・三角地帯周辺のうつりかわり
36 memo

三角地帯のはじまりを辿る

FIELD NOTE

第1章
三軒茶屋の
はじまりを
考えて歩く

「三軒の茶屋があったから、三軒茶屋」と、よく耳にする。しかしその「茶屋」はいつからあったのか？　その前に、茶屋があった街や道は、いつできたのか？　三角地帯のはじまりを考えるにあたり、三軒茶屋という地域そのものの出自が気になった。そこで、世田谷の郷土史研究を続ける金谷匡高さんに協力いただき、古地図と地図アプリを片手に、「三茶」のたどった歴史の痕跡が残る建物や道を巡ってみた。



フィールドワークのプロである学芸員の金谷さんを迎えて、フィールドワークのコツを聞きながら歩いてみました。観察ノートに添えた「tips」は金谷さんのお話より。

金谷匡高

かなや・まさたか

世田谷区文化財係学芸員、法政大学江戸東京研究センター客員研究員。近代建築史・都市史を専門として、世田谷の歴史を調べている。町なかに残された地域の歴史を探るため、大学などでフィールドワークやまち歩きを行う。

三軒茶屋より前からある道

Ⓐ 大山道の道標石碑　寛延2（1749）年

三軒茶屋の三角地帯の角、大きなカラオケ店があるその前に鎮座する不動尊と道標。描線はややつぶれているがたしかに「大山道」と刻まれている。苔むした碑の背後には、コンクリートの鉢に生える松の木がそびえるが、ほっそりして頼りない。ここは今では国道246号線と世田谷通りの分岐点であるが、かつては大山道の分岐があった。大山道は、神奈川県伊勢原市、丹沢山地にそびえる大山へ向かう「大山詣」のための街道。それが江戸時代に大流行したことで人の往来は格段に増えた。今の国道246号線は、世田谷の中心である代官屋敷をパスする、ショートカットのためにできた道だと言われている。その後の地名の由来とされる三軒の茶屋には、大山へ向かう旅行客が束の間の憩いを求めて立ち寄った。

ただし、江戸時代にはまだただの通過地点。宿場をはじめとする街としての機能はなく、のどかな田園風景が広がっていた。街として栄えるようになるのは、明治になり陸軍が入ってくるのを待つことになる。

tips 1

「事前リサーチをする」

これから歩く街のことを事前にリサーチしておくと、街にひそむ重要なトピックにより出会いやすくなります。過去の地図や歴史資料、地形図などに目を通し、街の構成要素を大まかに把握するだけでも、街は立体的に見えてきます。ウィキペディアや個人のブログを読んで、その記述を検証するつもりで歩くというのも面白いでしょう。

▸ 太子堂エリアが、本来あった村。他はほとんど田畑だった

「太子堂」という地名の由来にもなった円泉寺。この周辺は、かつての「太子堂村」の中心地だった。家屋は円泉寺の周辺以外にはほとんど存在せず、土地の大半は田畑だった。村人はこの比較的高台の地に集まって住み、用水のある今の緑道沿いには田んぼが広がっていたという。

明治以降、宅地を求める人々の需要に応える形で、田畑を持っていたもともとの村人が、地主として大きな土地を貸すようになり、それが現在の住宅地につながる。今でも、宅地化された家々の中に、旧家のお屋敷がひっそりと佇んでいた。その一方、都市労働に従事する貧しい女性を描いた、戦前のベストセラー小説『放浪記』の作者・林芙美子が住んでいた長屋も、円泉寺のそばにあったそうだ。

▸関東大震災を経て、
居住者が増えた

明治時代以降、練兵場の造営や玉電の開業などの影響から、人の流れが大きく変わった三軒茶屋地域。この地域の宅地化を決定づける出来事が関東大震災だ。三軒茶屋周辺は比較的被害が少なかったため、都心で被災した多くの人たちが移住することになる。

B 旧道沿いの看板建築　昭和前期

時代を映すハイブリッド建築?

三軒茶屋駅から国道246号を多摩川方面に歩いていく。すると、国道から少しそれてのびる旧大山道・中里旧道にぶつかる。住宅の合間にところどころ残る商店に、かつての街道沿いの賑わいを想像することができる。パッと見てみると、年月を感じるモダンな建物。よく見れば表側のデザインは作り込まれているが、すぐ後ろには、昔ながらの和風の木造家屋が。これはいわゆる「看板建築」と呼ばれる、関東大震災の後に流行した建築様式によるものだ。大通り沿いではあまりその姿を確認することはできなくなったが、この旧道沿いにはちらほら見受けられる。建物自体は木造の町屋であるが、前面だけ銅板やモルタルで覆い、西洋風に作り込まれた建築物。防火対策もあるが、それ以上に当時の人々のモダニズムに対する憧れを見出すことができる。

C 旧蛇崩川緑道　昭和50年ごろ

かつては川が、境界線だった

旧大山道の街道をそのまま下っていく。すると小さな稲荷の社のある不思議な五叉路にぶつかる。ここには以前、蛇崩川（じゃくずれがわ）が通っていた。現在は暗渠化され、緑道として整備されている。

かつて、各家庭から流された排水は下水道を通らず、そのまま川に流れ込んでいた。川は汚れたドブ川と化し、衛生的な面で川に蓋をする必要があった。そうして形成された緑道である。緑道はまた一方では、昔からある地区と地区の境界線をそのままに残す痕跡でもあるだろう。もともとの生活の用を成してきた川の流れが今にも生きているのか、自然と人や猫が集まりやすい共有地になっているのが確認できた。

tips 2

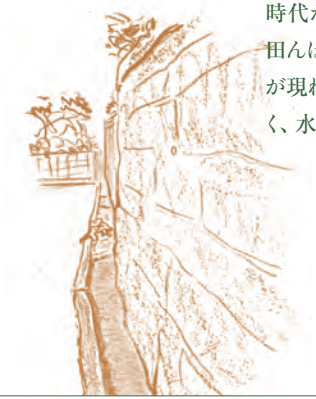
「歴史の“ズレ”に注目する」

街は時代ごとにダイナミックに姿を変えることがあります。江戸、明治、大正、あるいは戦前戦後など、さまざまな時代の地図を比較してみると、その街に隠された過去の風景を発見することができます。なぜ商店街ができ、大学があり、団地があるのか…。歴史の層を紐解いてみると、その街が成立する道筋が浮かび上がってくるのです。

農業と工業を支えた用水路

Ⓕ 崖沿いに残る水路の跡　時期不明

茶沢通りから緑道を西へ。住宅街の合間を通る崖沿いに農業用水路の跡を発見した。世田谷が位置する武蔵野台地は水はけがよく、稲作には向かない土地だった。苦労して用水を引いても土壌が悪く、「どぶ田」と呼ばれる膝まで泥でつかってしまう質の悪い田んぼが多かったそうだ。それでもこの辺りには、田んぼのためのたくさんの水路が張り巡らされた。時代が下り明治になると、水路沿いには、田んぼに変わってより生産性のある工場が現れた。今となってはどちらも跡形はなく、水路跡だけが残る。



▸宅地化の裏に、稲作の影が

世田谷区は、武蔵野台地の南端に位置する。この辺りは水はけがよく、水を溜めておくことができない地質。水田耕作には不向きな武蔵野台地の他の農地と同様、「陸田」を作って少ない水でもなんとか稲を育てられるようにしていた。とはいえ、陸田でできた米は水田と比べ、収穫量の面では劣ってしまう。そのため江戸時代には烏山用水など、様々な用水が引かれていく。それでも灌漑（かんがい）できるのはごく一部だった。土地自体の標高も高く、水を引くのにも苦労があった。稲作に不向きな土地だったことが、比較的早くから宅地化していった一因でもあるだろう。

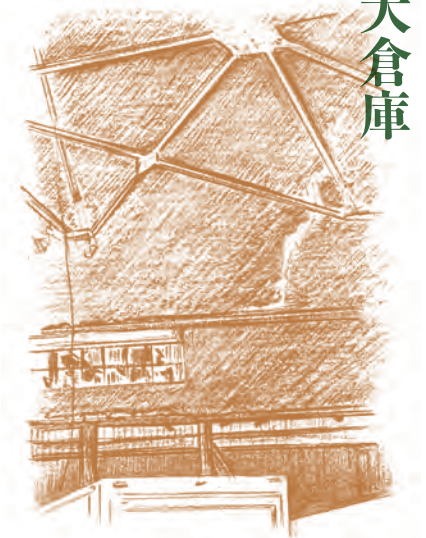
三軒茶屋駅から北東、茶沢通りの路地の先に現れる「下の谷商店街」のうねうねとした道筋は、かつての水田の跡だ。ここは関東大震災後、台東区下谷で被災した人たちが田畑を宅地化・商店化したという。

戦中から今も活用される大倉庫

Ⓔ 陸軍倉庫跡　昭和前期

世田谷公園、池尻小学校、自衛隊中央病院の脇を通って池尻大橋駅方面へ。陸軍の練兵場は三軒茶屋から池尻の方まで広がっていた。団地や大学もそうだが、この辺りにある施設群はその跡地を利用したものだ。歩いていると、この練兵場がいかに広く、そして戦後は多種多様な公共空間に転用されたかを知ることができる。

同じように旧陸軍から払い下げられたであろう公営住宅を抜けたあたりに、明らかに兵舎を再利用したような倉庫群がある。まるで老舗の酒蔵のような、年季の入った白い土壁が目をひく。柱の下部に露出している基礎の部分や、年月を感じる木板の屋根を見ても、相当昔に建てられた建物であることがわかる。倉庫として今でも現役であることは奇跡的なことだ。



そのままに残る軍事施設

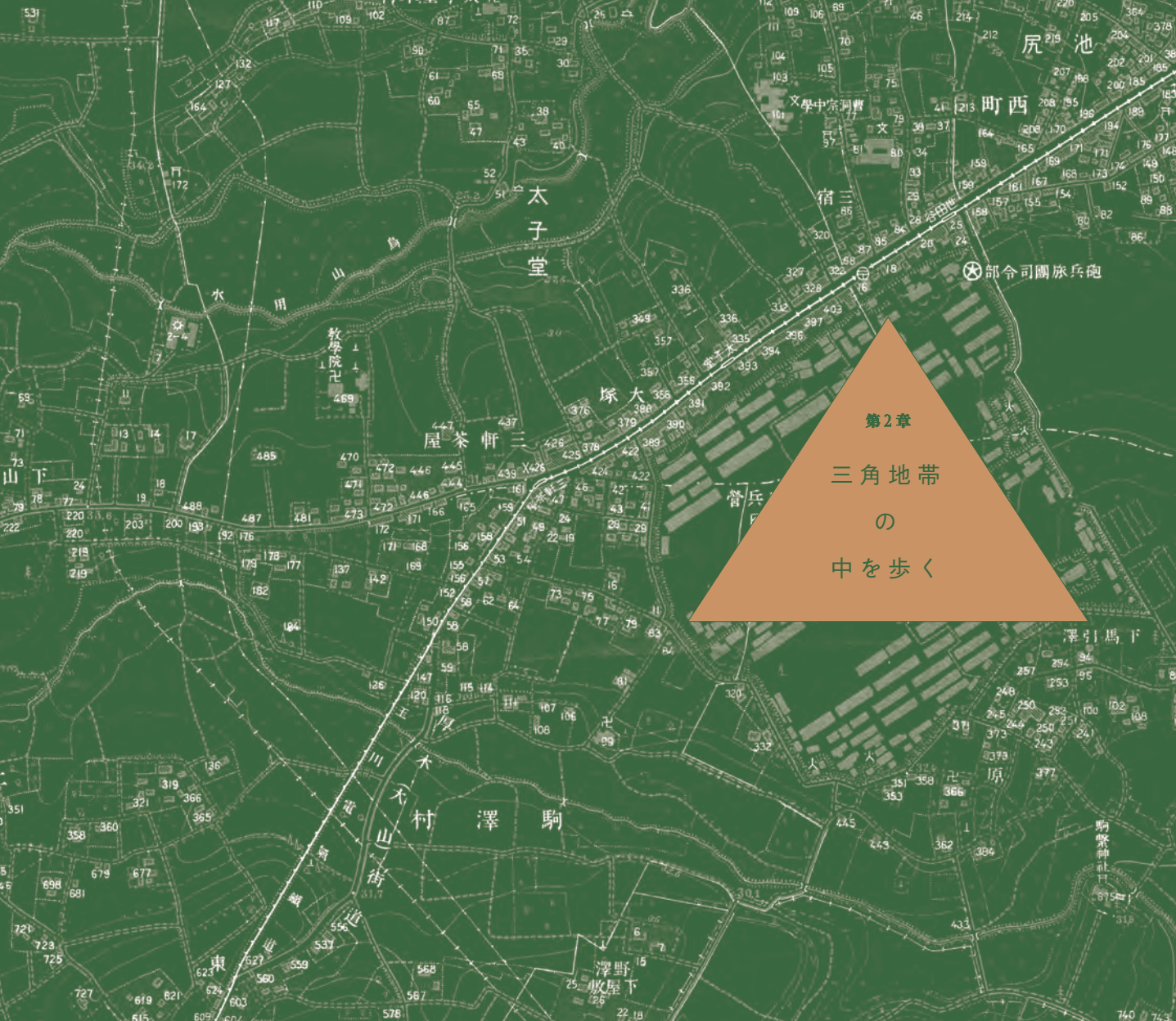
Ⓓ 駒沢練兵場の兵舎跡　昭和前期

三軒茶屋駅から南東に位置する昭和女子大や団地群を歩く。幼稚園やマンションなどが立ち並ぶ中、広い敷地の中に大きな木造の長屋がある。ところどころが劣化して補強の鉄板が打ちつけられており、まるで別の次元にあるかのような存在感。何を隠そう、ここはかつて陸軍の兵舎があった場所なのだという。練兵場の中でも建物の密集していない場所は焼夷弾（しょういだん）の標的にはなりにくく、この兵舎は空襲を免れて戦後もそのままの形で残った。建物や敷地は払い下げられ、残った兵舎はそのまま教室や住居、保育園として転用されたそうだ。戦後80年を迎える現在、その多くは建て替えられたが、この兵舎は今でもその土地で受け継がれている。奇跡的にその形を残しているこの兵舎は、この土地の来歴を語り継ごうとしているようにも思えた。

tips 3

「建築で時代を見るコツ」

こちらの施設のような明らかな年代物の建築のみならず、街に何気なく建っている民家や商店の中には、ある時代を偲ばせる大事な証言を語ってくれるものもあります。たとえば、東京の下町に時折残っている「看板建築」もその一つ（p.08参照）。関東大震災を受け、防火のために建物の正面だけを銅板やモルタルなどで装飾した商店が流行しました。建物は、時代ごとのスタイルを色濃く反映するものなのです。


第2章
三角地帯
の
中を歩く

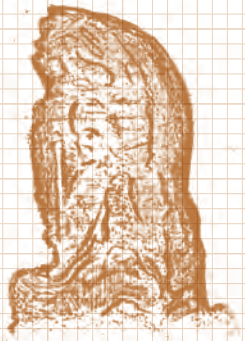
さて、いよいよ三角地帯へ。

大山道の三軒の茶屋をルーツとする「三軒茶屋」には明治を経て練兵場ができ、玉電（玉川電気鉄道）の開業や関東大震災後の宅地化を経て、商店の立ち並ぶ街となった。

大山道の分岐の近辺にある「三角地帯」も、村のはずれの土地だったのが、三軒茶屋とともに発展していく。戦前から映画館があり、当時から盛り場としての側面をもっていたようだ。戦時の空襲を経てヤミ市となった後も、その性質は引き継がれる。現在、商店の多くは飲食店となっているが、建物自体は周囲の開発の影響を受けず、戦後からほとんど変わることがない。

再開発が進んでいく地域の中で、時代から取り残された「間」のように存在する、三角地帯。奇妙な遍歴を辿ったこの場所の痕跡をたずね歩いてみよう。

出発するのは、再び大山道の道標から。ちなみに、この道標も街の変化とともに何度か移動され、道幅の都合などで本来の向きから変わったという遍歴があるそうだ。



▸「三角地帯」という名の由来

この地帯の形が「三角」になったのは、江戸時代の大山道にまで遡ることができるほど、かなり古い。だが、いつ、誰が「三角地帯」と呼びはじめたのかは定かではない。とある老舗店主の話によると、今から3、40年前ぐらいから「三角地帯」と呼ばれはじめたのではないか、とのこと。周辺の再開発の影響を受けず、ヤミ市の雰囲気を色濃く残すその姿から、様々な雑誌で「三角地帯」の特集が組まれ、その名前とともに注目されるようになった。

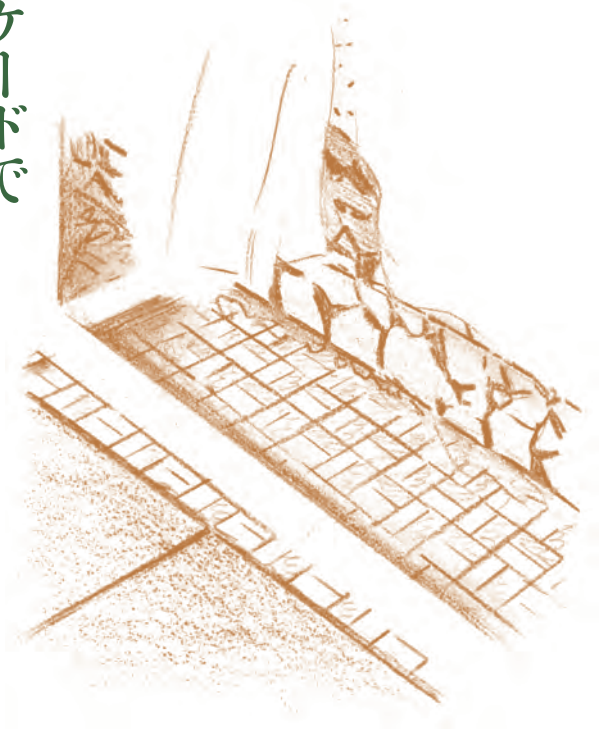
▸三角地帯の範囲はどこまで?

国道246号線と世田谷通りが分岐する三叉路を起点として、この二つの通りに囲まれた商店街、飲食街、レトロな飲み屋街の密集地…が一般的にはイメージされるだろうが、どこまでを三角地帯に組み込むのかはあまり定まっていない。「ゆうらく通りまでだろう」「いや、三軒茶屋シネマがあったところまでだろう」「雑誌では駒の湯の角までと紹介されている」と、小三角・大三角で議論が紛糾している。

この街で一番はじめのアーケードで

エコー仲見世／地面のタイル

三角地帯の先端から一番近い路地、エコー仲見世。ふと地面に目をやると、アーケードのタイルが妙だ。明るいもの、レンガ調のものなど、思い思いのタイルがつなぎ合わされている。世代の重なりを感じさせるこの地面は、老舗のアーケードならではのおもむきだろう。ずいぶん味のある屋根を見上げてみると、蛍光灯で照らされる暗い隙間の奥に何かがありそうだ。その話は後ほど。



▸ヤミ市から始まった通りは、今も賑わう商店街へ

ここは、全面アーケードになっている二筋の商店街。名前の由来は、浅草の浅草寺の参道「仲見世通り」から。戦後、焼け出された浅草界隈の人たちがこの地で出店する際に、仲見世に名前をあやかった、という証言がある。玉電の乗り換えのための通路として機能していたこともあり、交通量は今よりはるかに多かったという。通りの入り口には新聞販売を兼ねたボタン屋さんがあり、通行人が慌ただしく新聞を買う姿が見られたそうだ。エコー仲見世は、比較的飲食店以外の商店が多い。かつては他の通りも日用雑貨や食品を売る商店が中心だったが、大型スーパーの台頭などにより、飲食店街へと姿を変えていったという。その中でもエコー仲見世は、戦後復興時からの商店街の姿を保っていると言える。

エコー仲見世／長い歴史を継ぐ老舗

金メッキの飾り文字の看板が味わいぶかい「タカノ洋装店」。この店を長年営むご主人の話によると、店舗の2階を住居スペースとし、子どもができるなど、ライフステージの変化に応じて柔軟にリフォームして使っていたそうだ。

アーケードを進んでいくと、昔ながらの現役の豆菓子屋、「豆商はたの」がある。この店舗は、エコー仲見世と3番街をつなぐ抜け道にもなっている。たくさんの豆菓子が並ぶ店頭の、通路を挟んだ反対側には、豆を焙煎する作業所が。挨拶がてら、甘納豆を購入。店頭のおばあちゃんが手際よく商品を包装してくれた。

tips 4

「漫然と歩かないために テーマを設定する」

効果的なフィールドワークをするために、ある程度のテーマを決めて、目的意識を持ちながら歩くことをお勧めします。漫然とした「ただの散歩」にならないよう、街を観察するにあたってのテーマを何個か持っておきましょう。例えば、街の地下をひっそりと流れる暗渠をたどるだけでも、その街の基層や成り立ちがわかることもあります。

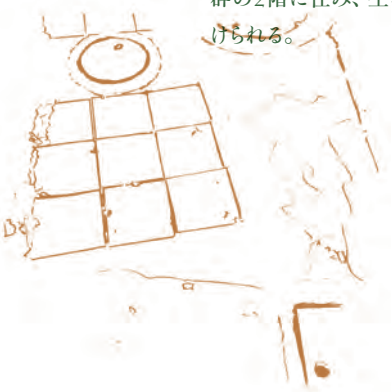
ふたつの通りに、積み重なった人の営み

Ⓑ ゆうらく通り／建物どうしの「隙間」

豆商はたのを抜け、エコー仲見世からさらに奥、「3番街」「ゆうらく通り」へ。まず目につくのが、建物どうしの隙間だ。お客さんの忘れ物だろうか、傘が数本、差し込まれている。隙間があれば何かを挟みたくなるのは人の性分で、そうした痕跡が積み重なっているらしい。ある壁面には「鉄板置き場」と書かれており、その下が黒く焦げ付いている。その上には、配管らしきものが地面まで伸びている。

隙間は、横並びの建物どうしだけでなく前後につながる建物の間にもある。いびつな隙間で、手前から奥までが何とか見通せる。この隙間は下水の通り道でもあったのだという。以前は汲み取り式便所のためのバキュームカーのホースの通り道があった、とも聞いたことがある。

ふと見上げてみると、店舗2階の窓に竿掛けを見つけた。こんな狭い隙間を利用して、衣服を干していたということだ。人々がこの店舗群の2階に住み、生活をしていた痕跡が見受けられる。



Ⓒ 三番街／アーチの看板と壁面の味わい

国道246号線沿いに、3番街の入り口のアーチがかかる。そのアーチには、それぞれの店舗の提灯がぶら下がっている。街の活気を感じさせる一方、看板の文字がいくつか取れてしまっているようだ。まず、「三茶」の「三」の一番下の棒がない。よくみると、「茶」の漢字だって、真ん中の部位が丸々取れ、未知の漢字になっている。このある種、ヨレた感じが愛らしい。

国道に面した店は、国道側に入り口を設けている。3番街の方の壁面にはおびただしい数のグラフィティ。ゆうらく通り側の店舗の壁を見れば、こちらのグラフィティは消されたのだろう。そこには通用口の扉があるが、うねうねと伸びるガス管で閉ざされ、開くことはできない。こんなところに「トマソン」が。

tips 5

「トマソンを探す」

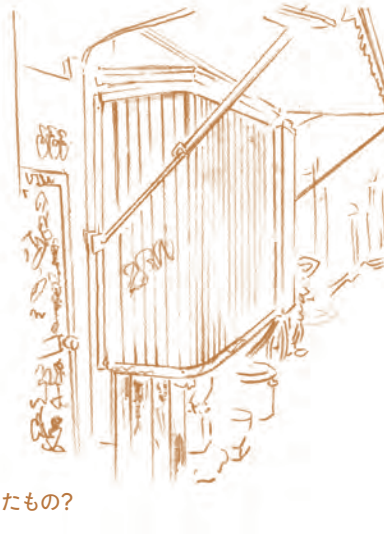
街を歩いていると、どこにもつながっていない階段だったり、川もないのに橋の欄干があったりするのを時々見かけると思います。そんな、街の建物にひっついたどこかヘンテコなものを、前衛美術家の赤瀬川原平さんは「トマソン」と称し「超芸術」として評価したことがありました。実はこのトマソンこそ、隠された街の歴史を紐解く鍵になることがあるのです。街が更新されても消えなかったかつての街の痕跡が地層のように露出しているもの。そんな物件を、赤瀬川さんは仲間たちとともに発見しては面白がっていました。

一歩抜ければ〝あわい〟の街が

三元ビル周辺／建物の基礎のでこぼこ

3番街を歩いていくと、三元ビルにぶつかる。長屋の店舗が連なる三角地帯の中では異色の、地下2階・地上8階建ての商業ビルだ。通りと同じように飲食店が入居するこのビルだが、もとはここにも乾物屋や豆腐屋などといった商店が連なっていたと地域の方が教えてくれた。商店群を整理し、ビルのテナントとしてそれぞれ入居したのだという。

三元ビルの入り口から3番街を眺める。地面を見ると、建物の基礎らしきコンクリートが店舗からはみ出る形で盛り上がっている。建物自体はそのまま使っているようだが、細かな増改築を重ねた痕跡だ。



三元ビル周辺／三軒茶屋駅との間にあったもの？

三元ビルから三軒茶屋駅方面へ。路地には「世田谷線」と書かれた手書き文字のアクリル看板がある。世田谷通りと三角地帯の路地群がぶつかるこのあたりの、ちょうど交番の脇の方にかつて玉電「三軒茶屋駅」の停留所があったのだ。改めて路地を観察してみると、ものを売るのにちょうど良さそうな、キヨスクの出窓に似た建物が残っている。今は半分シャッターが閉められ、開いている窓からは大きな鍋で調理をしている様子がうかがえた。

ところで、このシャッターの手前、世田谷通りに面するところに奇妙な一角がある。通り沿いの花屋の角に、食い込むように置かれた証明写真機。その存在を隠すかのように、自動販売機が取り囲んでいる…どうしてこうなったのだろう？

三角形の輪郭線は、開発と非開発の境目に？

千代の湯周辺／
公衆トイレのあった場所

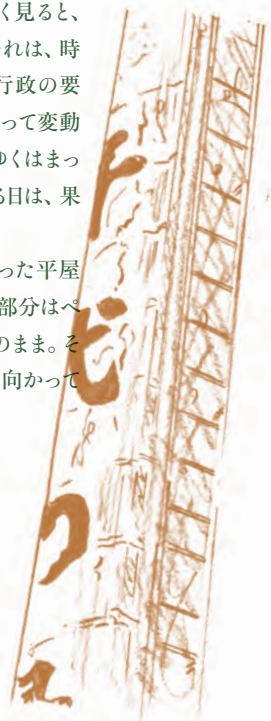
世田谷通りから再び三元ビル方面へ入ってみる。ゆうらく通りに接続する路地から向こうは舗装路が消えて砂利道になっていて、左手には高層マンションが建つ。この敷地は、戦前からの歴史を持つ映画館「三軒茶屋映画劇場」の跡地でもある。砂利道の突き当たりには自動販売機があり、その横にはフェンスに囲まれた何ともいえない空間が。ここはかつて、公衆便所があったと言われている場所だ。それぞれの店舗にトイレがなかった当時、商店街の人たちはここで用を足していたという。四方をフェンスで囲まれているのは、そのような事情があるのだろうか。

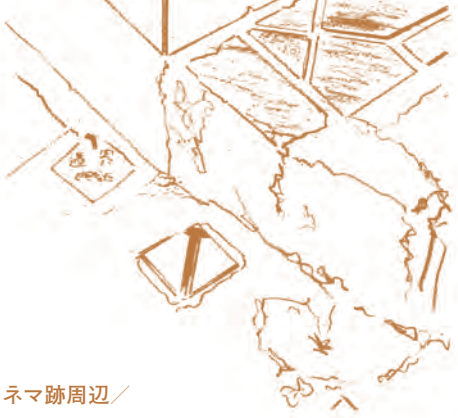
千代の湯周辺／
煙突の周りに残る痕跡

三元ビルの路地を右に曲がりさらに奥に進む。建物の間をぬうようにのびる、これまでの道幅よりもさらに狭い、名もなき路地。しばらく進むと少し空が開け、パッと光が差し込んでくる。そこには休業して久しい銭湯があり、ツタや草木が以前より繁茂しているように見える。ブリキで簡易的に作られた塀には、立ち小便禁止の鳥居のペンキ絵。上を見上げると、銭湯の煙突がまだまだ現役と言わんばかりに、しっかりとそそり立っている。この銭湯がまた開業する日は来るのだろうか。それとも、先ほどの映画館のように、マンションになってしまうのか。

銭湯を越えて、突き当たりを右に。新しいビルが建っている中にところどころ三角地帯らしい古い建物が残っている。地面をよく見ると、道路幅が微妙にでこぼこしている。それは、時代ごとの変動であるらしい。主には行政の要請から、または持ち主の事情などによって変動していく。都市開発においてはゆくゆくはまっすぐな道を目指すのだろうが、そうなる日は、果たしてくるのだろうか。

見ていると、ずいぶん年季のはいった平屋の店舗もある。増築したであろう2階部分はペンキなどで塗られることなく、木造そのまま。それにしても新旧あらゆる店舗が、夜に向かって一様に盛り上がっていこうとしている。





三軒茶屋シネマ跡周辺／店頭や足元の気になるモノ

現在、ビルを建てる敷地の角は、見通しをよくするため隅を切って道路状にすることが条例で定められているという。それにより、建物が新築になるたびに、隅切りの小さな三角が生まれることになる。その他にも様々な角に注目してみると、古い五叉路の角の三角形に沿って車避けをつけた、三角地帯のなかの「三角地帯」もあった。今はもう車もそう通らない位置にあるこの無用さ。これもトマソンだと言えるだろう。

そうした地面をよく見てみると、私有地と道路の境目を示す「道界」があって、ある建物の角にはいくつも埋め込まれており、それぞれ色や材質が違う。増改築や、土地のやり取りの履歴が、こんなところに残っているのだ。

しばらく行くと、右手に「三軒茶屋シネマ」の看板。三軒茶屋に最後まで残った映画館だ。シャッターの閉まった入り口のそばに、チケットカウンターらしき小窓が鉄板で塞がれ、ポストが置かれている。上を見上げると、屋上に何やら年季の入った緑のネットで囲まれた空間を発見した。入り口を探してみると、スーパーの横の小さな階段にバッティングセンターの看板が。ただし、ここもシャッターが下ろされていた。よく見れば遠くにある螺旋階段は、そこへの入口だったのだろうか。

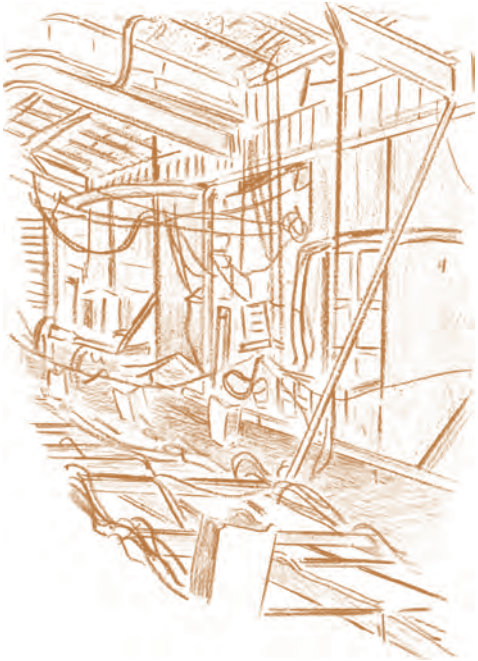
やっぱり気になる、三角形の「天井」

再びエコー仲見世／アーケードの屋根

この地帯は、どうしてもぐるぐると歩き回ってしまう。かつての痕跡がどうつながっているのか、あらためて確認しないと気がすまないから。そこでもう一度見たかったのが、エコー仲見世の、屋根だ。見上げると、アーケードの照明の上に、さらに高い天井があることに気が付く。その奥に何か空間があることを確認できる。しかし、その空間を隠すかのように照明があるため、目視ではなかなかその全容を把握することはできない。

照明に手をかざして光を遮ってみたり、試行錯誤しながら観察している我々を見かねたのか、エコー仲見世でお店を営む方が声をかけてくださった。ご厚意で、2階に上がらせてもらうことができた。

大屋根の下の「2階」から



② エコー仲見世／2階からの景色は――？

現在は事務所として使用されている2階。奥の部屋にはキッチンの設備があり、居住するための設計になっていることがわかる。「昔は家族みんなで住んでいた」という話も聞いたことがあるが、この空間で暮らしていたのだろう。そして、アーケード内なのに、窓がある。開くと、小さなベランダのような露台があり、その上を大きな天井が覆っている。話によると、ここは建物が先にあり、その後にアーケードを設けたのだという。

願ってもない話だが、露台に上がらせてもらうことができた。天井があるので当たり前ではあるが、ベランダなのに昼間でも暗く、日食の時のような不思議な光景を目の当たりにする。窓をよく見ると、長い鎖を伴った滑車が上の方から垂れている。雨戸の代わりだろうか、銅板が。おそらくこの銅板を滑車で動かしたのではないか、とのこと。銅板を採用しているのは、防火対策で間違いないだろう。

2階はそれぞれに利用状況が異なり、完全に銅板を下ろしているところ、少し薄明かりが漏れているところなど、様々だった。

▸店主に聞いた「仲見世の暮らし」

エコー仲見世で器ギャラリー「絵れ菜 Tokyo」を営む村上大輔さん。幼少期から三角地帯に馴染みがあるという村上さんに、お話を聞いた。

「僕の母の実家は、もともと仲見世でカバン屋をやっていました。池尻の方に家と工場があって、そこで剣道着や柔道着のような武道着を縫ってたんですね。全国から針子さんを集めたりしてね。いわゆる集団就職ですね。そこで縫い上げたものを、陸軍の練兵場に納めてたわけです。うちの祖父が『皇太子さまの水着を縫ったんだよ』と言ってたこともあったな（笑）。今の上皇さまですよね。本当かどうか、確かめようのない話ですけど。

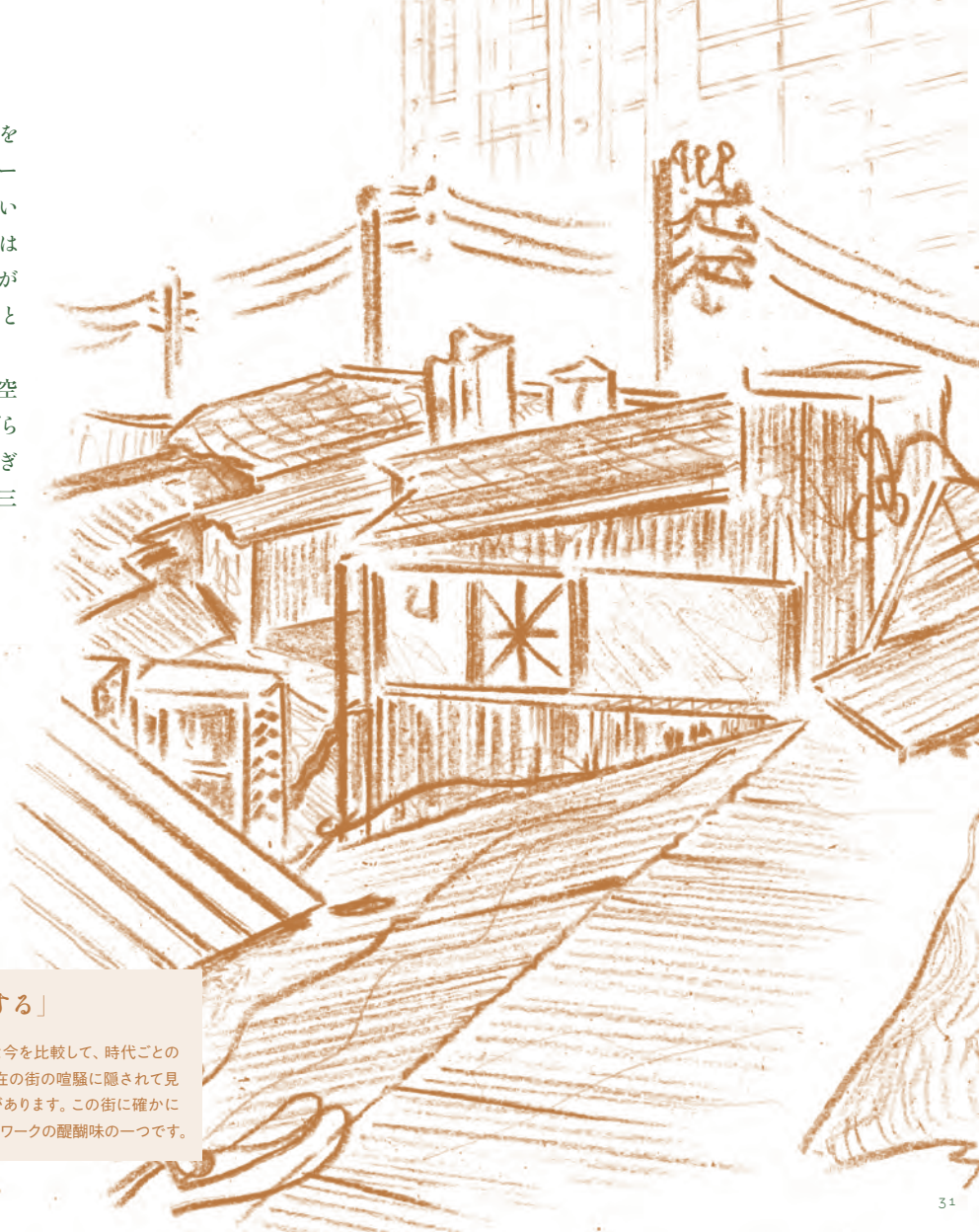
そのカバン屋が閉店してから三茶を離れてたんですが、いつか仲見世に戻りたいなとは思っていて。今借りているこの物件は馴染みの八百屋さんが移転することになって、みんな名残惜しそうにしてたんです。そこに入る形で僕は10年ぶりに戻ってきたんだけど、変わってなさすぎて。『この10年、みなさんどうされてました?』って聞いても、『どうもしてねえよ!』『昔のまんまだよ!』って（笑）。

入っている店や三角地帯全体の雰囲気は変われど、エコー仲見世を昔から支えてきた人たちは全然変わっていない。そんなみなさんから話を聞いたり、記録を残すこともしていきたいと思っています。それが、この街を活気づけることにもつながるはずです」

ⓐ エコー仲見世／三角地帯の歴史のあと

近くから改めて見れば、まるで倉庫や体育館を想起させる大きな天井。この建築構造はアーケードを作った時以来、今まで変わっていないそうだ。ただし、さすがに経年による雨漏りは時々起こっており、その度にそれぞれの店舗が屋根裏部屋から屋根へ登って補修しているという。

たしかにエコー仲見世のアーケードを航空写真で確認してみると、とたんの屋根がまだら状に展開されているのがわかる。このつぎはぎだらけの屋根こそが、戦後から現在に至る三角地帯の歴史そのものなのかもしれない。



tips 6

「かつての街を想像する」

街にひそむ様々な時代の痕跡を見つけたり、古地図と今を比較して、時代ごとの共通点や相違点を浮かび上がらせていく。すると、現在の街の喧騒に隠されて見えなくなった「かつての街」が立ち上がってくる瞬間があります。この街に確かに生きていた人々の営みに想いを馳せるのも、フィールドワークの醍醐味の一つです。

三軒茶屋・三角地帯周辺のうつりかわり

周辺の出来事と、三角地帯の変遷を年表で辿る

南北朝時代末ごろ	太子堂（のちの円泉寺）が建てられる。 当寺院を中心に農村として栄え、当地は太子堂村と呼ばれるようになる。
1603年	徳川家康が江戸幕府を開く。
江戸中期	相模国（現神奈川県）にある大山への参拝「大山詣り」が流行し、大山道を整備。分岐点に三軒の茶屋（信楽、田中屋、角屋）ができたとされる。
1716年	太子堂村近隣の駒場野（駒場）が御拳場（鷹場）となる。
1868年	江戸幕府崩壊。明治維新へ。
1870年	明治政府が駒場野を練兵場に指定（翌年廃止）。跡地は農学校となる。
1891年	騎兵第一大隊（のちの騎兵第一連隊）が外桜田から駒場野に移転。
1907年	玉川電気鉄道 渋谷−玉川間が開通。 渋谷周辺に住む軍人が主に利用する。
1909年	騎兵連隊の西北に陸軍獣医学校が移転。その後、駒沢練兵場、三宿野砲第一連隊他が集まる。
1912年	現在のキャロットタワーの位置に太子堂青物市場など市場の開設。
1921年	太子堂府営住宅が完成。都心に住む住宅困窮者を中心に移り住む。
1923年	関東大震災発生。比較的被害が少なかった世田谷地域に本格的な宅地化がはじまる。台東区下谷から人々が移り住み、田畑を埋め立てて下の谷商店街が形成され始める。
1925年	駒澤電氣館（のちの三軒茶屋映画劇場）開業。玉電下高井戸線開業（三軒茶屋−下高井戸間）。三軒茶屋駅は2線を結ぶターミナル駅になる。
昭和初期	三宿にキンカンをはじめとした工場が立ち並ぶ。この頃には農村の面影は薄れ、商店街が発展していく。
1932年	世田谷区設置。
1933年	駒沢町から三軒茶屋町が分離。
1941年	日米開戦。
1943年	建物疎開を含む「都市疎開」の閣議決定。延焼を防ぐための防火地域や道路拡張などにより、街の建物が整理される。

△「三角」になる前

大山道が分岐して「三角」の土地が生まれる以前、ここにはただただ田畑が広がっていた。現在の三角地帯があるところは村の中心からは外れ、村同士の境界にも近い。よって、それぞれの村が適時利用する入会地のような場所になっていたのではないかと推察される。

△大山道が整備され、三角の土地が生まれる

幕藩体制が安定し、平和な世の中が訪れた江戸時代中期。以前よりも旅の安全が確保されたこともあり、庶民の中では著名な神社仏閣にお参りすることが流行した。特に「大山詣」は人気があり、参拝者のために大山道が整備されることに。それでも人の行き来はやまず、そのために新道を作ることになった、と言われている。その新道との分岐ができた時点で地理上の「三角」が発生したと言えるだろう。

その分岐点には、信楽（のちの石橋楼）、田中屋、角屋という三軒の茶屋が営業するようになったそうだ。これが「三軒茶屋」と呼ばれるようになった所以である。とはいえ、三角地帯が宿場町になることはなく、茶屋の他は相変わらずのどかな風景が広がっていた。

△練兵場ができ、人の往来が増えはじめる

明治維新を経て、三角地帯は大きく変わっていく。比較的平野が広がっていた三宿から三軒茶屋にかけて、陸軍の練兵場が設立されたのだ。さらに、三軒茶屋を通る玉電が開通したこともあり、軍関係者を中心に人々の往来が増えはじめた。

三角地帯付近にも徐々に商店が出現。とはいえ、いずれも軍人をターゲットにしたと思われる食堂やお土産物屋が大山道沿いにできはじめた程度であり、本格的な街が形成されるのはもう少しあとのこと。

△宅地化が進み、街の重心が移っていく

関東大震災は、都心で被災したたくさんの人々が郊外に移り住むきっかけになった。三角地帯の周りの田畑もだんだんと宅地化され、新住民の需要に応えるべく商店街も次第に増え続けていく。そして三角地帯には、その繁栄を象徴するかのように、映画館が開業する。

かつての、太子堂を中心にした農村集落は、三角地帯のある三軒茶屋に中心を移し、本格的な街へと発展していった。

1945年	第六次建物疎開。池尻町から三軒茶屋町にかけて、延べ24,200坪の建物が取り壊される。／三軒の茶屋の中、最後まで飲食を提供していた「茶寮イシバシ」（石橋楼）が建物強制疎開令により閉店。／東京大空襲で三軒茶屋地域も被災。／敗戦。兵舎群が、満州からの引き揚げ者のための住居（世田谷郷と呼ばれる）や、日本女子高等学院（のちの昭和女子大学）の教室などに転用される。／三軒茶屋交差点付近を中心に、ヤミ市が広がる。
1949年	昭和女子大学設置。
1950年	エコー仲見世商店街が形成される。
1953年	文華マーケットで職人約30人が建物を破壊する事件が起こる。街の治安が問題に。
1959年	三宿の練兵場跡に世田谷公園が開園。
1962年	国道246号線（玉川通り）の拡幅整備が進められる。
1964年	東京オリンピック。会場である駒沢競技場の建設や道路拡張工事に従事する労働者が三軒茶屋周辺に集まるようになる。それに伴い、飲食店や居酒屋が増えていく。
1968年	三軒茶屋町が現在の町域になる。
1969年	東急玉川線が三軒茶屋−下高井戸間を除いて廃止となる。
1971年	首都高速3号渋谷線（渋谷出入口−用賀）が全線開通。
1977年	新玉川線（のちの田園都市線）、渋谷−二子玉川間が開通。
1981年	世田谷区議会にて「三軒茶屋地区市街地再開発基本構想」策定。三軒茶屋地域の本格的な再開発が始まる。
1985年	大型スーパー、ams西武三軒茶屋店（のちの西友三軒茶屋店）開業。個人商店に変わりスーパーマーケットが増え始める。
1992年	三軒茶屋映画劇場が閉業。
1996年	キャロットタワー竣工。三軒茶屋地域の再開発が進んでいく。
1997年	生活工房がキャロットタワー内に開館。
1998年	三軒茶屋映画劇場の跡地に地上14階建てのマンション「グランドメゾン三軒茶屋」が竣工。ワンルームマンションが増え、自治会に入る人が少なくなっていく。
2009年	戦後から60年間、エコー仲見世内で親しまれていた玩具店の青木屋が閉店。
2014年	三軒茶屋シネマ閉業。これにより、三軒茶屋から映画館が姿を消す。

△ヤミ市から世田谷有数の商店街へ

空襲などにより焼け野原になった三角地帯。戦後の混乱のなか、人々はこの焼け跡にヤミ市を形成するようになる。そのヤミ市がそのまま、日用雑貨や衣料、子どものおもちゃまで一通りなんでも揃う、世田谷有数のマーケットの一つに。エコー仲見世に代表されるような、現在にも続く商店街へと発展していく。一方、50年代には何かと事件やトラブルも多く、治安の悪さから三角地帯を敬遠する人も増えたという。

△労働者の集まる横丁に

60年代にまた、三角地帯には転機が訪れる。東京オリンピックのために駒沢競技場の建設や道路拡張など、世田谷区内で建設ラッシュが起こるのだ。そこで、たくさんの建設労働者が三軒茶屋に立ち寄るようになる。三角地帯に飲食店や居酒屋が増え出したのは、その頃からだという。

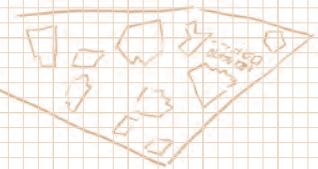
日本が高度経済成長期を迎える中、路面電車であった玉電は姿を消し、頭上には高速道路が走るようになる。街は着々と変わっていく。

△再開発から取り残された「ディープな街」として

再開発の波は三軒茶屋にも押し寄せる。地価の高騰を受け土地の売買が進み、ビルの建設も相次いだ。付近に大型スーパーマーケットの出店もあり、日用雑貨などを売っていた専門店は徐々に姿を消してゆく。

一方、三角地帯にはあまりビルが建つことはなく、ヤミ市から発展してきた建物群はほとんど変わることがなかった。開発から取り残されたその雰囲気はしばしば注目され雑誌で取り上げられることも。

現在、“三茶の三角地帯”と聞いて多くの人が思い浮かべる「ディープな飲み屋街」というイメージは、昔の面影をとどめた雑多な街並みや日用品店に代わって増えた飲食店の賑わい、それらを取り上げるメディアによって広まっていったものだろう。



本書は、世田谷区三軒茶屋に位置する通称「三角地帯」の記録プロジェクト第二弾です。

2024年5月に発行した第一弾『三軒茶屋・三角地帯 △のはなし』『△の地図』では、地域の人々の話に耳を傾け、三角地帯の風俗史を記録しました。

第二弾は、地形や建物、明治から現代までの周辺地図を手がかりに、三角地帯の成り立ちを考察します。

生活工房WEBサイト「広報物」ページ（setagaya-ldc.net/download/）内の「生活工房アニュアルレポート」から、PDFデータがご覧いただけます。

三角地帯のはじまりを辿る

FIELD NOTE

2025年4月28日発行

［編集］
大澤景
篠原繭（TISSUE Inc.）

［執筆］
シャラポア野口

［アドバイザー］
金谷匡高
（世田谷区文化財係学芸員、
法政大学江戸東京研究センター客員研究員）

［取材協力］
男鹿芳則
（前世田谷トラストまちづくり理事長）

［デザイン］
北岡誠吾

［イラストレーション］
平木元

［企画］
桜井祐（TISSUE Inc.）

［発行］
公益財団法人せたがや文化財団
生活工房

［印刷・製本］
株式会社山田写真製版所

明治10年代 三角地帯付近の様子

国土地理院所蔵「東京府武蔵國南豊島郡代々木村荏原郡上目黒村近傍」「東京府武蔵國荏原郡碑文谷村」「東京府武蔵國東多摩郡和泉村荏原郡上北澤村」「東京府武蔵國荏原郡等々力村及用賀村圖」を加工、4枚を組み合わせて作成

現代の三角地帯にあたる場所

大正6(1917)年12月 三角地帯付近の様子

世田谷区立郷土資料館所蔵 1万分1地形図「東京近傍十八号　世田谷」を加工して作成

現代の三角地帯にあたる場所

昭和5（1930）年10月三角地帯付近の様子

世田谷区立郷土資料館所蔵 1万分1地形図「東京近傍十九号　世田谷」を加工して作成

現代の三角地帯にあたる場所

現代 三角地帯付近の様子

地理院地図電子国土WEB（maps.gsi.go.jp）を加工して作成

三角地帯